

# GP ラスベガス 2018 参加記

## GP シンガポール 2018 参加記

GP Las Vegas 2018 4 \* 🏠 🌊



**Legendary — Event** 

6/13 : あなたは USD20 を失う  
6/14 : あなたは USD100 を失う  
6/17 : あなたは USD42 を得る  
6/18 : あなたは USD100 を失う  
6/19 : あなたは USD10 を失う

Photo by Traveller 2018/6/14-6/17

1/2

Singapore 2018 2 🌳 \* 🌊



**Legendary — Event** 

6/23 : あなたは SGD300 を得る  
6/25 : あなたの SGD は変わらない

ひとは賭けに勝ったときのことだけを覚えていて  
自慢したり写真にとって SNS にあげるものだ - ひろじ

Photo by Traveller 2018/6/22-6/25

2/2

# 酷い高所恐怖症のくせに 勇気を出してグランド・キャニオンの 断崖絶壁に笑顔で立つ

くわしくは本文参照



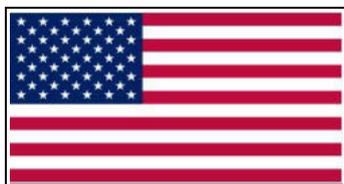
# 目次

[この本について](#)

4

[GP ラスベガス 2018/シンガポール 2018 について](#)

4



## GP ラスベガス編

[参加を決め航空券と宿を購入](#)

6

[参加パッケージとその申し込み](#)

7

[相部屋メイトを決める](#)

8

[アニバーサリー・ベータドラフト](#)

9

## 2018年6月13日(水)

[羽田空港へ](#)

10

[出国](#)

11

[機内の12時間](#)

11

## 2018年6月13日(水)

[ロサンゼルス空港](#)

13

[ラスベガス到着](#)

14

[ホテル・マルディグラ](#)

14

[ホテルの夕食](#)

15

[ラスベガス初日終了](#)

16

## 2018年6月14日(木)

[サイドイベントの日](#)

17

[GPシンガポール参加の検討](#)

17

[GP会場へ入りVIP受付](#)

19

[アニバーサリー・ベータドラフト予選シールド#1](#)

19

[ドミナリアドラフト ポッド#8](#)

21

[ドミナリアドラフト ポッド#11](#)

22

[フーターズで夕食](#)

23

[フーターズ・カジノでブラックジャック](#)

24

[木曜日終了](#)

24

## 2018年6月15日(金)

[GP本戦\(モダン\)の日](#)

25

[GP本戦\(モダン\)開始](#)

26

[本戦の進行トラブル](#)

27

[本戦再開とゴールデンチケットの獲得](#)

27

[本戦終了](#)

28

[VIPパーティー](#)

30

[金曜日終了](#)

30

## 2018年6月16日(土)

[GP本戦\(リミテッド\)の日](#)

31

[本戦シールドの開始](#)

32

[一方、その頃ちえけださんは…](#)

34

[ターボ・タウン](#)

35

[夕食](#)

37

## 2018年6月17日(日)

<a href="#">PTQ シールドの日</a>	38
<a href="#">PTQ シールド</a>	38
<a href="#">忘れ物そして忘れ物</a>	40
<a href="#">ドミナリア ドラフト</a>	42
<a href="#">会場離脱</a>	43
<a href="#">ダウンタウンへ</a>	44
<a href="#">タクシーのチップ</a>	45
<a href="#">フリーモント</a>	46
<a href="#">夕食</a>	47
<a href="#">カジノで勝利</a>	47
<a href="#">ホテルに戻る</a>	49
<a href="#">楽しい日曜日が終了</a>	49

## 2018年6月18日(月)

<a href="#">グランド・キャニオン バスツアー</a>	50
<a href="#">ピックアップ・バスに乗車</a>	51
<a href="#">バス集積所</a>	52
<a href="#">バスツアーの開始</a>	53
<a href="#">フーバー・ダム</a>	53
<a href="#">グランド・キャニオンへ</a>	54
<a href="#">ウエスト・リムへようこそ</a>	55
<a href="#">イーグルポイントへ</a>	56
<a href="#">昼食</a>	57
<a href="#">ガード・ポイント</a>	58
<a href="#">グランド・キャニオン終了</a>	59
<a href="#">ラスベガスに戻る</a>	59
<a href="#">フーターズ・カジノでブラックジャック(2回目)</a>	60
<a href="#">ホテルで夕食</a>	62

[荷造りを終えて終了](#) 62

## 2018年6月19日(火)

<a href="#">さらばラスベガス</a>	63
<a href="#">マッカラン空港へ</a>	64
<a href="#">ゲート前で朝食</a>	64
<a href="#">さらばアメリカ</a>	65

## 2018年6月20日(水)

[帰国](#) 66



## GP シンガポール編

## 2018年6月21日(木)

<a href="#">出国</a>	68
<a href="#">まずは台北へ</a>	68

## 2018年6月22日(金)

<a href="#">シンガポール到着</a>	69
<a href="#">朝のチャンギ空港</a>	69
<a href="#">会場へ</a>	71
<a href="#">Unlimited ドラフト予選シールド#1</a>	71
<a href="#">Unlimited ドラフト予選シールド#3</a>	73
<a href="#">フードフェアで夕食</a>	75
<a href="#">ホテルにチェックイン</a>	76

[ホテル周囲を散策](#)

[金曜日終了](#)

## 2018年6月23日（土）

[予選シールドの日](#)

[会場入り](#)

[混み具合](#)

[Unlimited ドラフト予選シールド#5](#)

[Unlimited ドラフト予選シールド#6](#)

[会場の外へ](#)

[Unlimited ドラフト予選シールド#7](#)

[フードフェアで夕食](#)

[カジノへ](#)

[カジノで大勝ち](#)

[土曜日終了](#)

## 2018年6月24日（日）

[予選シールドとドラフト](#)

[朝食のカフェ](#)

[Unlimited ドラフト予選シールド#8](#)

[ドミナリアドラフト ポッド4](#)

[ドミナリアドラフト ポッド6](#)

[ドミナリアドラフト ポッド9](#)

[フードフェアで昼食](#)

[ドミナリアドラフト ポッド14](#)

[ドミナリアドラフト ポッド19](#)

[チャイナタウンでうなぎ料理](#)

[24時間開いているコンプレックス](#)

[日曜日終了](#)

## 2018年6月25日（月）

76 [セントーサ観光と出国](#) 96

77 [マジック日記とチェックアウト](#) 97

[セントーサ島へ](#) 97

78 [巨大マーライオン](#) 98

78 [無料バスでシロソ・ポイントへ](#) 98

79 [スカイウォーク](#) 99

80 [シロソ砦](#) 100

81 [戦勝記念館](#) 101

82 [マクドで昼食](#) 102

82 [やまりのカジノ](#) 102

84 [さらばセントーサ](#) 104

84 [女房への土産を購入](#) 104

85 [一風堂の博多とんこつラーメン](#) 105

86 [無料の足マッサージ機](#) 106

[搭乗](#) 107

## 2018年6月26日（火）

87 [ドンムアン空港](#) 108

88 [帰国](#) 108



95 [延々とウォッシュレットの広告が続く成田空港。](#)  
95 [世界に誇る日本の文化。](#)

## この本について

本書は2018年6月14日（木）～17（日）に米国ラスベガスで開催されたマジック・ザ・ギャザリングのグランプリ（GPラスベガス2018）および6月22日（金）～24日（日）にかけてシンガポールで開催されたマジック・ザ・ギャザリングのグランプリ（GPシンガポール2018）の双方にプレイヤーとして参加した筆者の記録です。現地の金額表記は原則としてUSD（米ドル）とSGD（シンガポールドル）で行いました。為替レートでは1USD=110円、1SGD=81円くらいだったようです。

（重要）それぞれのパートでは単に「ドル」と書きましたので、ご注意ください。

## GPラスベガス2018/シンガポール2018について

GP（Grand Prix;グランプリ）というのは、1年に50回くらい世界のあちこちの都市で開催されているカードゲーム「マジック・ザ・ギャザリング」の大会です。世界中から500-3000人くらいのプレイヤーが集まって、日本でも1年に4回ほど開催されます。GPラスベガス2018（※1）はラスベガスで2018年に開催された大会ということになり、GPシンガポール2018（※2）はシンガポールで2018年に開催された大会ということになります。なお2018年からの変更で、すべてのGPの「主催」はChannel Fireball（※3）が行っておりますが、GPシンガポールの実際の運営はPanda Events（※4）が行いました。なお昨年同様にGPラスベガス2018の会場はLas Vegas Convention Center（※5）であり、GPシンガポールの会場はMax Atria（※6）でした。

※1 <https://www.grandprixvegas.com/>

※2 <https://www.pandaevents.cn/detail.php?city=GP%20Singapore>

※3 <http://store.channelfireball.com/>

※4 <http://www.pandaevents.cn/index.php>

※5 <https://www.lvcva.com/>

※6 <http://maxatria.com.sg/>

# GP ラスベガス編



Map by Google

2018年6月14日(木)～17(日)

Las Vegas Convention Center

## 参加を決め航空券と宿を購入

基本的に筆者は、近場の海外のリミテッド GP にはお金や有休に余裕がある限り参加することをパターンにしておりますが、GP ラスベガスは2013年にモダンマスターズによるGP ラスベガス2013があまりに楽しくて、またその後もGP ラスベガスでは常に新しいチャレンジが見られたこと（2015年の最大定員1万人の4ブロックによる分割開催や2017年の3つのGP連続開催など）から「ラスベガスだけは別腹」として基本は参加を決めておりました。

ただし2018年のラスベガスについては「6月に1週間の休みを取れるのかな？」がやや微妙であったので、しばらくは参加のスケジュール決定を控えていたのです。

なのですが、当時のミャンマー赴任も終えた2018年3月早々に「3月一杯でこの会社を退職する」ことが決まり、次の会社のあても特に決まっていなかったことから、つまりは当面の収入は無くなったものの**6月にたっぷり時間を使える**ことが確定したため、GP ラスベガス2018への参加を決定しました（笑）。

同時に今回は気になってはいたもののこれまで見送っていた「グランド・キャニオン」の観光を1日加えることにしました。あくまで日程に余裕はあるので。

このため3月6日には、6月13日（水）に羽田を出て、6月20日（水）に成田へと戻るデルタ航空のプランを決めオプションツアー込みでExpedia（※1）で選びました。

ホテルについては、過去の2回はGP会場のLas Vegas Convention Center（LVCC）と同一敷地のウエストゲートホテルを無条件で選び宿泊していたのですが、どうもウエストゲートは高い割に良い部分が少ない（GP ラスベガス2015参加記/GP ラスベガス2017参加記を参照）ので、今回は「徒歩圏内の他のホテルはどうか？」と思い至り、それほど遠くなさそうなマルディグラ（Mardi Gras）ホテル（※2）をチョイスして予約します。

マルディグラの評価は未知数ですが多分ウエストゲートに**倍額払う**ほどではなかろう。そんなわけでトータル137,208円をExpediaで決済し、購入完了です（ちーん）。

※1 <https://www.expedia.co.jp/>

※2 <https://ag.avvio.com/convert/site/Mardi%20Gras%20Hotel%20and%20Casin>

## 参加パッケージとその申し込み

4月になると GP Las Vegas のサイトでは各種のエントリーができるようになりました。最近ではアジア圏 GP では導入されないことも多い「VIP」システムですが、VIP の先駆け GP ラスベガスはやはり今年もやりました。

また今回は「モダン」「リミテッド」の2つの GP が開催されること、および今年からは「GP プレイマット」を GP 参加者全員の参加賞にするのではなく「希望者はオプション支払いで購入」という形式になったため、この意味でも色々なオプションがつけました。

Modern Main Event	USD 69.99	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GP 本戦（モダン）の参加権</li> <li>・ GP プロモ（変わり谷）</li> <li>・ CFB のデッキケース、ライフメモ、ペン</li> </ul>
Limited Main Event	USD 84.99	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ GP 本戦（リミテッド）の参加権。※ドミナリア6パック</li> <li>・ GP プロモ（変わり谷）</li> <li>・ CFB のデッキケース、ライフメモ、ペン</li> </ul>
Grand Prix Master	USD 199.99	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Modern Main Event のすべて</li> <li>・ Limited Main Event のすべて</li> <li>・ 25 周年アニバーサリープレイマット</li> <li>・ 「変わり谷」のプレイマット</li> <li>・ 構築サイドイベント6個の参加権</li> </ul>
VIP Package ※本戦参加権 とは独立	USD 99.99	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 25 周年アニバーサリープレイマット</li> <li>・ VIP ラウンジへのアクセス権</li> <li>・ サイドイベント優先列</li> <li>・ 「ターボタウン」のチケット4枚</li> <li>・ CFB の水筒、スリーブ、デッキケース、紐バッグ</li> </ul>
Diamond VIP Package ※本戦参加権	USD 199.99	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 25 周年アニバーサリープレイマットの<b>フォイル版</b></li> <li>・ 金曜夜のVIPパーティーへの参加権</li> <li>・ GP 本戦でのVIP専用席</li> </ul>

とは独立		<ul style="list-style-type: none"> <li>・VIP ラウンジへのアクセス権</li> <li>・サイドイベント優先列</li> <li>・「ターボタウン」のチケット8枚</li> <li>・CFBの水筒、スリーブ、デッキケース、布バッグ</li> </ul>
Modern Playmat	USD 14.99	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GP モダン本戦用のプレイマット1枚 (シッセイの後裔、シャナ)</li> </ul>
Limited Playmat	USD 14.99	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GP リミテッド本戦用のプレイマット1枚 (ポーラスの手中)</li> </ul>
Both Playmats	USD 25.99	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GP モダン本戦用のプレイマット1枚</li> <li>・GP リミテッド本戦用のプレイマット1枚</li> </ul>

その他にも、一方あるいは双方の本戦はスルーして多くの構築・リミテッド用のサイドイベントを行いたいプレイヤーのためのお得なパック「Constructed Fanatic」「Mega Constructed Fanatic」「Limited Fanatic」、コマンダーを遊びたい人用の「Commander Fanatic」、過去のセットのドラフトを行う「History of Draft」パックなどもありましたが、さすがに自分の参加形態には関係なさすぎるので割愛します。

ともあれ「モダンとリミテッドの本戦の両方に参加」「過去の経験から一番良いVIPに申し込む。というよりVIP専用席は快適なので」「プレイマットは欲しい」自分としては、「Grand Prix Master」「Diamond VIP」「Both Playmats」を申し込み424.97ドルを振り込みました。これで基本、GPラスベガス本戦への参加は確定です。

## 相部屋メイトを決める

海外でホテルを取る方には常識ですが、日本と違い宿代は基本「部屋単位」で課金される

ので、同じ部屋でも2人で借りれば正味半額になります。このためGPラスベガスに行く知人から相部屋メイトを探すことにして、ほどなく昨年のGPラスベガス2017でも同室だった白木原さんが今年もGPラスベガス2018に参加することが判明したので相部屋を提案し、ホテルをウエストゲートからマルディグラに変更することも含めて同意を得ます。このためエクスペディアに連絡をして部屋を「キングサイズベッド1つ」から「クイーンサイズベッド2つ」に変更し、これもほどなく完了しました。

あとは精算額ですが、エクスペディアはホテルをセット割にする関係で「旅費とホテルの内訳」を明細には記してくれないので、別途エクスペディアで同じフライトの旅費のみのプランを申し込み直前まで行ってみてから差額を「これがホテル代かな？」として決着。それを半分にして白木原さんからはリゾートフィー込み水曜～火曜の7泊分3万円を貰うことにしました。たぶん取りすぎてもいないし足りなすぎもしないと思います。

## アニバーサリー・ベータドラフト

5月に入り、GPラスベガスの公式サイトから「25周年企画」として驚くべき発表がなされました。今回の目玉として最終日に「ベータ」未開封24パックを使用したドラフトを行うというもので、そのための参加者を8人選出するための「予選シールド」を8回行うということでした。シールド予選自体は普通の「ドミナリア」です（定員256名）。

ちなみに未開封ベータなどもはや存在自体が希少なわけですが、いま晴れる屋で見たら1パック30万円の値段がついていました（ただし在庫なし）。

さすがにこのためにGP本戦をパスすることはなかったものの、GP本戦のない木曜日の予選#1は普通に参加できるわけなので、ネットで予約をぼちりました。

あとは実際に購入したSIMのアクティベートを行ったり送迎バス予約などをしたものの、基本的には事前準備をしながら当日を待つことになりました。

## 2018年6月13日（水） 羽田空港へ

余裕を持って11時に家を出て、カートを引いて自宅近くの京成バス停へ。ほどなく来たバスに乗り11時半過ぎには青砥駅に到着。11時40分に来た羽田空港行きの普通電車に乗車。時間が時間だけに普通に座れました。あとは40分後には羽田空港に着きます。

これまで自分は海外に行く際はJR新小岩駅を起点にして羽田空港や成田空港に行っていたのですがこの春のダイヤ改正から「エアポート成田」が発見できなくなりました。どうも成田空港に行くには新小岩駅からですらJR1本より京成乗り換えの方がずっと早くて楽であることからそういう名前をつけるのをやめたようです。しかも実のところ我が家からはJR新小岩駅まで移動するのと京成青砥駅まで移動するのはバスを使えば大差なく、しかも青砥駅からだと京成線1本で非常に快適に成田空港まで行けることが先立って判明していたのでした（これは5月の台湾旅行で実感しました）。

そして成田空港のみならず羽田空港にも青砥駅からの直通電車が出ていることが判明したため、これはもしかしたら羽田空港へも青砥駅からのほうが楽なのではないか…と思って今回初めて試してみたわけですが、実のところその結果としては、何でオレはこれまでJR新小岩駅なんて利用していたのだろうと**後悔した**ほどの快適ぶりでした。

これまでは自宅から新小岩駅まで15分歩くかタクシーを使い、JRで浜松町まで移動したうえでモノレールに乗り換えて羽田空港まで行っていたので…。

まあ通勤定期などの関係もあって、これまでは「JR新小岩駅」を中心に移動ルートを考えており、京成電鉄は無視していたという側面がやはり大きかったです。

車中でスマホをいじっているうちに、12時26分には羽田国際線ターミナル駅に到着。その10分後にはデルタ航空のカウンターで発券を終了し、さらにその10分後には旅行鞆をカウンターに預けて身軽になりました。荷物はやはりラスベガスまで直送ではなく、いったん途中のロサンゼルスで受け取ってから再度預ける必要があるようです。

## 出国

では身軽になったし昼飯にしよう…と思って羽田空港ターミナルの食事エリアに行く…がやはりレストランは普通に高いので係員にコンビニの位置を聞いてから、いったん京成駅改札近くのセブンイレブンに戻り、おにぎりを3つ購入したうえで平らげる。さらにペットボトルの飲料を飲み干してから、セキュリティの列に並んだうえで13時半には何もなくセキュリティを通過してイミグレも通過。さらに現地ATMによるドル獲得に問題が生じたときの保険として、手持ちの日本円を100ドルくらい替えておくか…と思って両替所を探すと、自動外貨両替機なるものを発見。ほほう。米ドルとユーロと人民元は両替が出来る模様。レート113.2で100ドルほど購入。

ドラッグストアで機内飲み用のペットボトルとM&Mなど購入し、1時間ほど時間を潰してから15時過ぎに搭乗して通信を切り、定刻どおりに15:15に出発。



## 機内の12時間

機内映画サービスで新作「スターリンの葬送狂想曲」がかかっていたので一瞬喜んだも、日本語がついてませんね。英語字幕で観始めても筋は分かったものの、部屋で倒れているスターリンを放置して閣僚が議論をドタバタ始めたあたりで「ああ、やっぱりこの映画はちゃんと日本語字幕か吹き替えで観たほうが



楽しめそうだ」と思ったので視聴中止。

16時40分、飲み物おつまみスナックが配られ始めたので受け取って食べます。

そして17時15分には夕食が配られ始めました。色々てんこりで肉も野菜もパンもあって、まあ味も普通、かな。もぐもぐ。



そして食事が終わるなりゴミ回収に入り、18時には機内の照明が落とされました。

こんな時間だけど**もう寝ろ**ということですね。

最近の自分は規則正しい生活とは全然言えずに、しばしば夕方などに昼寝をするようになっていたので、素直に座席を倒しつつ目をつぶると、こんな時間ではあるものの普通に睡魔が襲ってきました。うつらうつら。

20時。起きていた乗客に対してはハーゲンダッツのアイスが配られたので受け取ります。プラスチックのスプーンがまったく通らない固さに、しばらく手で温めたりして解凍のち暗い中をいただきます。食べたらずいぶんゴミ回収ののち、再度の睡眠。

そして22時。すなわち日付変更線をまたいだので今は**同じ日の朝**の6時になりました。自分のスマホの時計を修正します（ここからは米国西海岸の時間で記します）。



引き続きうつらうつらとしていると、7時15分、機内の照明がつき「もう起きろ」というサインが出ましたので起きることにしました。

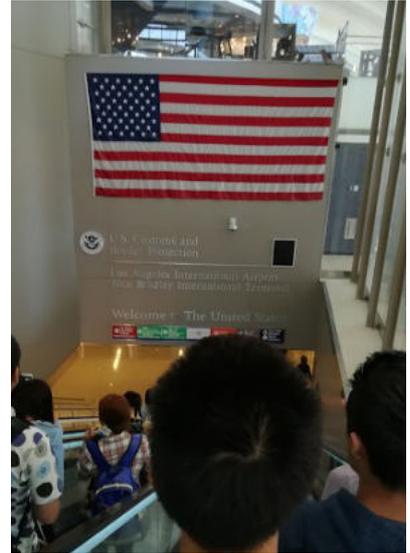
そして配られるおしぼりで手と顔をふき、続いて配られた軽食を取ります。玉子とチーズのロールブレッドにヨーグルトとフルーツ。大変おいしく頂いた後にゴミを回収すると朝の8時。

日本時間では午前零時なのは忘れつつ、そろそろ機はロサンゼルス空港に到着。ここからいよいよ、米国での初日が始まります。

## 2018年6月13日（水） ロサンゼルス空港

8時50分にはロサンゼルス着。今回は日本で某社の一週間有効のSIMを購入し事前にアクティベートするというのを試してみたのですが、果たして…おっ、まだ機内なのにさっそくネットが使用できる状態になっています。これはなかなか悪くないですね。

残念ながら、くしゃみと鼻水が出るコンディションであるものの、猛烈に眠いというほどのこともなく。



9時15分にはESTAの自動ゲートでイミグレを通過。うん、こりゃ楽でいいですね。自動撮影での自分の**人相の悪さ**に自分でびびったものの（笑）。その10分後には荷物も回収できました。

当初は2時間待ちの予定の所を、デルタ航空から「11:40 予定の乗り継ぎ便が 13:25 に遅延しました」とメールが来ていたので約4時間待ち。待つしかないなあ。ゲートは出ていないもののターミナルは合っている筈なので移動を開始する。

その途中でBoAのATMが合ったのでクレカでの現金確保のテスト。問題はないものの、上限200ドルしかおろせませんでした（手数料は3ドル）。

セブンイレブンで風邪薬などを買ってターミナル3に徒歩で移動したのち、待つうちに10時過ぎにゲート番号が出たので、ゲートを移動し10時半には到着。あとは3時間ほど待つしかない。ラスベガス到着は16時頃かなあ。当初は昼過ぎにラスベガス到着予定だったのでチェックイン後に原爆博物館にでも行くかと思ったが、窓口は17時まででもあるのでこの予定は中止と決定。

ゲートが31Aになったり眠気をこらえて待った後、14時半頃に搭乗し、座るなり爆睡。

## ラスベガス到着

機内はひたすら眠っていたが2時間後の16時24分、ラスベガスに到着。

「1年ぶりだね」

「…来たよ」

今年はイレギュラーとはいえ流石に1年しかたっていないのは短い。



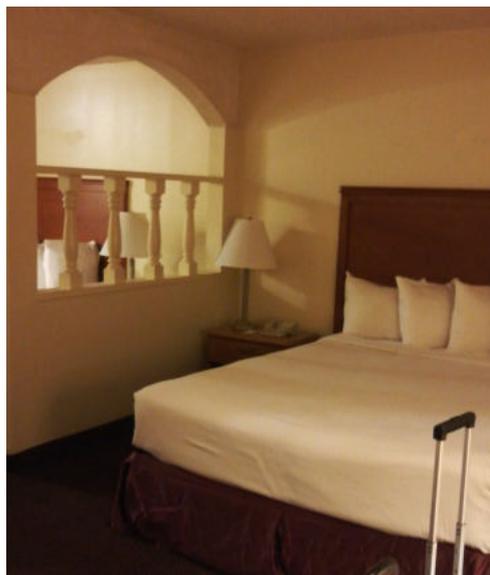
白木原さんと連絡が取れたので合流。やはりネットを即時確保できていて正解だったな。会ってまだ自分のバゲージを回収していないのですが、と言うと「デルタ航空ならここ（ターミナル3）じゃなくてターミナル1では」という指摘。あう。2人でターミナル1へのシャトルに乗って移動。すでに自分の次の便の荷物がレーンに並べられていたので、レーンの横を見ると未回収の荷物を並べてあるエリアがあり、そこに自分の荷物を発見。このため係員を呼んでタグを見せ、ほどなく荷物を回収すると17時を回りました。ここで白木原さんに送迎バスをエクスペディアで予約済（800円）であった旨を伝えて、そのメールに書いてあった場所へ移動するとその会社のカウンターを発見。白木原さんは送迎料金を別途支払うのだろうなと思って追加チケットを購入しようとしたら「購入済の自分の連れなら料金はいらぬ」ということでそのまま乗車。まあバスの同じ所で降りるだけとはいえラッキー。400円ずつ折半とし、タクシーよりは相当に安くあがりました。

## ホテル・マルディグラ

ホテル送迎バスは相乗りバスなので、それから小一時間ほど「次はフラミンゴ」「次はLINQ」と停車していきますが、市内観光バスだと思えば気になりません（笑）。

そして30分ほど乗車して18時にバスは自分たちの泊まるマルディグラに到着。

何事もなくチェックインを終え2156号室のカードキーの2枚を受け取ります。最初は部屋の目の前のエレベーターの存在に気がつかなかったので階段で2階に上がって入室。うんいい部屋じゃないですか。大きいベッド2つに、ベッドの間に仕切りまで。夜は自分がDiaryNoteに日記を書くパターンになる関係で（この写真では死角の）家具の位置を踏まえ手前のベッドを自分が使うことにします。



またホテルWifiも普通に使えるレベルでの接続を確認。今の所、満足の行く評価。

## ホテルの夕食

19時。まだ明るいものの夕食にしている時間である。ただし自分は食欲こそあるものの、喉風邪が結構酷い状態であり、時差ボケもまだ残っており、ついでにフーターズ夕食には明日ちえけださんがラスベガスに来てから一緒に行こうと思った（笑）ことから、今夜はこのホテルの1階にあるレストランを試してみようということにしました。



そこで白木原さんと1階のレストランに移動。食欲は普通にあったので「やっぱアメリカに来たのならステーキだろ」ということでステーキの15ドルを注文。あとコーラ（なんか無料だったぽい）。…普通においしくて分厚い量のある奴がきましたよ。

さらに勘定書きを出してもらったあとでアイスクリームが出てきました。つまり

これはセットかサービスなのかな。はねあがるこのホテルへの評価。

自分のコーラは勘定書きになく無料だったようなのですが白木原さんのコーヒーは有料だったことも含め、2人の頼んだものを見比べ自分はチップ込みで20ドルを出して終了。まんぞく。



## ラスベガス初日終了

食事を終わると20時半。白木原さんと近くのスーパーまで買い出しに行くことにする。ようやく夕暮れにさしかかったようで、この時間でもぜんぜん明るい。スーパーは南に行くとなん分歩いて到達。ポテチや部屋飲みドリンクや喉に効きそうな風邪薬などを購入。ドリンクの500mlペットボトルは1本3ドル4ドルするのが普通なのに、2リットルのジュースは99セントで買える**アメリカの不条理**。たぶん税制なのだろうけど。

部屋に戻って買ったものを置くと、自分は再度部屋を出てホテル1階のカジノへ。とはいうものの本当にちんまりしたカジノで、テーブルはなくスロットマシンが何十台か置いてあるだけのしょぼいもの。スルーしても良かったのですがここは通過儀礼として、20ドル札でスロット25セント台を回し、それをすって終了。最後のバウチャーを小銭に替えたものの、キャッシャーが厳重な扉の向こうでなく部屋の隅っこの机にあっただけのカジノなんて初めて見ました（笑）。

明日からのために風邪は治しておきたいし、そもそも時差ボケもあるしなので、部屋に戻ってシャワーを浴びて22時過ぎには自分は就寝。

## 2018年6月14日（木） サイドイベントの日

2時半に目が覚めてトイレと水分の補給。なおサインがメインの白木原さんは、まだ寝ておらずにサインを貰うカードの整理をしていました。自分はそのまま再度寝。

そして8時にさわやかに起床。うん、もう時差ボケとかに悩まされずに済みそうだ。

喉は相変わらず酷くて声もろくに出来ないほどだが、熱もなく気分は悪くなく何より空腹。

まだカードの整理にいそしんでいた白木原さん（どれほど寝たのかは不明）は朝食はパスするということで、1人で1階に下りてレストランの朝食を試すことにしました。

テーブルに座るなり、メニューと同時にまずコーヒーを入れてくれるのも好印象

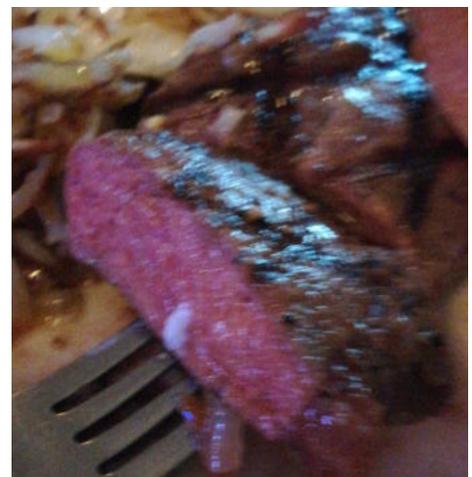
（まあ、別に無料ではないのですが）。

そして朝食メニューの中から「ステーキ&エッグ」セットを注文します。お値段12.95ドルと昨夜よりは控え目ですが、

### 朝からステーキ。



メリケンではしょうもない飯でも軽く千円は超えるという認識だったので13ドルは大したものが出るまいと思っていたらまともに分厚い赤身ステーキが半熟玉子トーストと。つけあわせのポテト炒めも美味しいし、コーヒーも呼ばなくても足してくれる。まんぞく。チップ込み17ドルを置いて行くことにしましょう。



## GP シンガポール参加の検討

おいしい食事をしながら本日の予定を確認。今日はこれから10時に会場が開くと同時に入って10時半からの「アニバーサリー・ベータドラフト予選シールド#1」に参加する

(ネット予約済) わけですが、基本的に定員 256 人のこのシールドは 5 回戦固定でありつまりトップ 8 ドラフトに参加するためには**全勝**しなければなりません。これはガチで上位賞を取りに行くのなら 1 敗するなりドロップして次の予選の #2 や #3 に行くべきである、事実上のシングルエリミのようなものなのですが、まあそこまで頑張らない人なら 10 点以上で賞品チケットが出るので、2 敗するまで遊ぶのもありかもしれません。いずれにせよ今日は全 8 回の予選のうちの #2 や #3 には参加が可能のようであり、また日曜日に開かれる #8 にも参加は可能なようですが、どちらにせよ GP 本戦に参加をする以上は、金曜日や土曜日に開かれる #4 ~ #7 は無条件で見送らざるを得ません。

…とここまで考えて、それなら GP ラスベガスの翌週の GP シンガポールでは、**本戦を全スルーすれば**アニバーサリー Unlimited ドラフトの予選には最大 8 回まで参加可能なのではないか、ということに気が付きました (笑)。

自分は GP シンガポールにも参加することをそれまで一応検討していたものの、本戦がスタンダードであるために興味はあまりなく、そもそも 6 月 20 日 (水) にラスベガスから日本に戻ったうえで 6 月 21 日 (木) にはシンガポールに向けて日本を発つというのは、さすがに無職で時間は取れ、お金も何とかなるとはいえ体力的にかなり厳しいのではないかと、ということで参加は見送ることにしていたわけなのです。

そこでこのプランを現実にするための条件を検討すると、お金や体力はともかくとして、主に次の点をクリアしなければならないことが判明しました。

- (1) さすがに呆れるかもしれない女房の同意をちゃんと得ること。
- (2) シンガポールには行かない予定だったので 6 月 24 日 (土) に千葉のショップで PPTQ ヘッドジャッジをやる予定を入れてしまったのを何とかすること。
- (3) 一週間前の間に往復の航空券が適価で買えるだろうか問題。

(1) や (3) は後で埋め合わせをしたりお金で解決できる問題ではありますが (2) は店舗に迷惑をかけ自分の信頼を失うことから絶対に解決しなければなりません。そういうわけで千葉を行動半径としたジャッジのメーリングリストに依頼をかけ、自分の代わりに当日そこでジャッジをしてくれる方がいないかどうかを探すことにしました。

## GP 会場へ入り VIP 受付

おいしい食事を終えて 8 時半過ぎに部屋に戻って、1 時間くらい時間を潰して 10 時前にホテルを出て北へ。炎天下をてくてく歩き、10 分ほどかけて 10 時ぴったりに会場のあるコンベンションセンターの北棟に入る。冷房が涼しい。ホテルから会場までは、競歩なら 10 分、のんびり歩けば 15 分というところかな。

ちょうど開場した会場に入ろうとしていた大勢の「おれたち」に混ざって会場に入る。

やはり会場レイアウトは去年とまったく同じなのかな？ と思いながら入口を右に曲がって、まずは VIP のチェックインを終えることにして列に並ぶ。

なかなか進まない列に、10 時半からのシールドに間に合うだろうかとハラハラしつつ、20 分くらい待たされたうえで VIP チェックインを終え、いろいろとグッズを受け取ります。



## アニバーサリー・ベータドラフト予選シールド#1

10 時半前にエリアに移動し、シートオールを見て着席し、ほどなく配られたパックを相互チェック。のち、構築開始。

まずはレアチェック。

…うん、悪くないんじゃないかな。

レアを生かすべく白黒タッチ赤で構築。

《ベナリア史》  
《反復の学部長、ナバン》  
《リッチの熟達》  
《ファイレクシア教典》  
《ウィンドグレイスの騎士、アルイエール》  
《断崖の避難所》

取りレア

Creatures: 12	Spells: 12	Lands: 16
《新ベナリアの騎士》	《シヴの火》	《断崖の避難所》
《セラの信奉者》	《不屈の意志》	《愚蒙の記念像》
《通電式召使い》	《ギデオンの叱責》	《平地》 * 7
《ベナリア史》	《馬上槍》	《沼》 * 5
《酷役の歩哨》	《火による戦い》	《山》 * 2
《吠えたけるゴーレム》	《魔術師の稲妻》	
《騎兵呼集》	《臍腑抜き》	Sideboard:
《雑食のサリッド》	《ファイレクシア教典》	《放射稲妻》
《ウィンドグレイスの騎士、アルイエール》	《氷の干渉器》	
《虚ろな者、アゴロス》	《最古再誕》	
	《焦熱の介入》	

構築デッキ

Round1 Ericさん 白黒 ○××

- G1 回って勝ち。
- G2 空から殴られて負け。
- G3 負け。

Round2 Jhonathanさん 白青 ○○

- G1 快勝。
- G2 快勝。

Round3 Robertさん

NO SHOW。まあガチで上位賞を狙う人なら1回負けたらドロップだよね。

時間ができたので昼飯の代わりにVIPラウンジで無料のクッキーとコーヒー。まあ夕食はちゃんと食べるつもりだし空腹をまぎらわせるには十分。



さらに受付に行って、まだ回収して  
いなかった本戦プレイマット2つを  
ゲット。



さらに荷物を確認して Diamond  
VIP 特典「ターボ・タウン」の参加  
チケット 8 枚を確認します。

この時点では使い方がよく分からず構築イベントに参加するよりはドラフトだよと思って  
いたのでリミテッドでの**トークンにでもするか**と思っていました。

ただしこれは割とお値打ちものであったことが後に判明します (P.35)

#### Round4 Michaelさん 白黒緑 ××

G1 沼を引かなかったうえ、相手に《ウルザの後継、カーン》が出てきて終了。

G2 土地が止まって終了。

2 敗して賞品の目がなくなったのでドロップ。さ、次行こう。

## ドミナリアドラフト ポッド#8

すでにこの日のアニバーサリー予選シールド#3は13時に締め切っていたので（本気で  
参加したかったのなら1回戦で負けた時点でドロップしてエントリーしろ案件）、普通の  
ドミナリアのドラフトにエントリーし、ほどなく立つ。

1-1 《多勢の兜》。これ1枚で勝てるボムレア。

マナを伸ばして生物を多めにすべく、緑黒で。

《アンティキティー戦争》  
《ミラーリ予想》  
《ヨーグモスの不義提案》  
《ヤヤの焼身猛火》  
《多勢の兜》

取りレア

## Round1 白緑 ××

G1 セラ天に空から殴られて負け。

G2 順調に伸ばされて負け。

シングルエリミなので終了。次いこ次。

## ドミナリアドラフト ポッド#11

ドミナリアのドラフトにエントリーし、ほどなく立つ。

1-1 レアを流し《水底のドルイド、タトヨヴァ》。ただし  
結局は青黒にしたのでハズレのピックでしたが。

《戦慄の影》
《飢饉の具現、トルガール》
《ゴブリンの鎖回し》

取りレア

## Round1 白緑 ××

G1 土地が3枚で止まって負け。

G2 土地が2枚で一時停止し、3枚で一時停止し、4枚で止まって負け。

負けた時点で18時を回ってしまったので、本日のマジックはこれにて終了。

18時受付終了なんてGPラスベガスにあるまじき早さだと思いました。毎日23時頃まで  
サイドイベントをエントリーでき遊べた「**120時間耐久マジック**」の感もあった  
去年のGPラスベガスはいったいどこに行ったのでしょうか。これじゃただの普通のGP  
じゃないですか…。まあ、ジャッジの数も例年よりだいぶ少ないようなのですが。

## フータースで夕食

この頃にはちえけださんがラスベガスに到着していて同じホテルにチェックインしていたので、一緒に夕食にするべく連絡をつけ、白木原さんとホテルに戻って合流。

夕食はフータースカジノホテルの「マッド・オニオン」のステーキにして、それからまたフータースでブラックジャックをやりたいという自分のプランに沿って移動開始。

まだまだ明るい中を3人でホテルを出てぶらぶらと徒歩で北上し、GP会場に行く途中にあるモノレール駅に上って切符を買い、MGM 駅までモノレールで南下。

MGM 駅からはMGM ホテルの巨大なカジノ内を横切り（素通り）、ペラージオへと続く歩道橋を渡ってから、フータースカジノホテルに入店（この頃、20時を回ってようやく薄暗くなってきました）。

ところがフータース1階のカジノ周辺を歩いて探すも、マッド・オニオンがありません。どうやら**潰れた**らしいという結論の状態に。同じ場所に別のステーキ屋はあるのですが、なんだかイマイチ感。



このため素直に、フータースで夕食にすることにしました。3人で適当にハンバーガーや皿ものを頼み、適当に取り分けて適当にチップ込みの支払い総額を決めて適当におのおの食べた物と飲んだ物に応じて3人で分割。

金額は忘れましたがたぶん自分が払ったのは20ドルくらいだったと思います。味はまあ、普通にフータースなのでそれほど悪くはないのですが、今夜の俺はハンバーガー腹でなくステーキ腹であった感があるので、やや残念。

## フータース・カジノでブラックジャック

食後は買い物に行くという白木原さんが離脱し、自分とちえけださんはさっそくカジノ。そもそもフータースカジノホテルに来たのは、マッドオニオンが目当てというよりは懐にやさしい「ミニмум5ドルのブラックジャック台」で遊ぶため（ついでにおっぱい鑑賞）だと言っても過言ではありません。2人でさっそく5ドル台の空席を探します。

自分は種銭100ドルちえけださんは200ドルを出して25ドルチップと5ドルチップに換え、これを1~2枚ずつ賭けて打ち始めます。

基本的にはいつものように勝ったり負けたりして一時的に原点超えにもなったこともあるものの、今夜の自分は特にツキもなくディーラーがブラックジャックを連発するなどして種銭が減っていき、使い切って自分は離脱。すなわち今夜の自分は100ドルの負け。

ちえけださんも基本的にはチップを減らしていき、自分が離脱した時に25ドルチップが1枚と少々だけの状態になったため、それを5ドルチップに換えることなくそのまま置き「これが無くなったら帰ろう」と言って勝負をすると、勝ちました。25ドルチップ獲得。ちえけださんはそのまま25ドルチップ2枚を「これが無くなったら帰ろう」と言って勝負をすると、勝ちました。テーブルには25ドルチップが4枚。

さらにちえけださんが「これが無くなったら帰ろう」としてその状態での25ドル4枚を賭けたためテーブルが**ざわっ**とするも、そこで勝負をしたところ勝ってしまいました。

ええええええ。ちえけださんはここで8枚の25ドルチップを手に「いやあ、元が取れた元が取れた」と言ってにこにこして席を立ちます（正確には8ドルのプラスで終了）。

すげえな。いいもん見せて貰いましたわー。

## 木曜日終了

2人でモノレールに乗って23時過ぎにホテルに戻って、シャワーを浴びてマジック日記など書くと本日は終了。明日はいよいよGPラスベガス（モダン）本戦です。就寝。

## 2018年6月15日（金） GP本戦（モダン）の日

7時半に目が覚める。今日は本戦モダンの日なのでBYE1の自分はまだゆっくりできるものの、部屋に居ることもないので支度をして出て、8時過ぎには会場入りしてぶらぶらと。朝食を取っていないので何かないとVIPルームに行くと昨日の作り置きポップコーンがあったので、一袋取る。VIPスカイラウンジに上るとドーナツが置いてあったので1つ取ってかじる。甘ったるい。スタッフは居ないのでコーヒーなどは入らないが、ウォーターサーバーは生きていたので冷水をコップに入れて飲んで、甘さを紛らわせる。ともあれ朝の必要なカロリーは摂取できました。



ところで実は昨日からスマホがまともにネットにつながらなくなって閉口していたのですが利用データを見ると。…うーん、これだけ見ると通信障害というより「データを使い切った」感じだな。このmostsimというメーカーのSIMは「一週間使い放題」だったはずだけど、あるいは「所定データ量を使ったので低速回線に切り替え→結果としてつながらない」ようにも見えるなあ。何にせよこのメーカーは**次回はナシ**かなあ。今回はもう会場ホテル空港は無料Wifiで乗り切ることにしましょう。

やはり6GBをLTEで使い切ったら以後は**128Kbbs**回線になるというオチでした。テキストSNSのみ使えるにしてもこれでいまだき「ネット放題」とか言われてもなあ。ただ空港に着くなりあたふたSIM購入トライしなくても通信できたのは大変に良かったので、購入データ増強プランか追加チャージ可能なプランでまた利用するかも。

## GP 本戦 (モダン) 開始

今回のモダンの自分デッキは「ホロウワン」。メインデッキはネットのほとんど完コピーで、正確にはフェッチランドの種類を手持ちのものに合わせて修正しました（青赤フェッチを入れる必要性が特に感じられなかったので、赤黒フェッチに修正したりしました）。サイドボードは手持ちカードの有無とも相談しつつ、それなりに考えてチョイス。一応「この相手にはこの3枚をこの3枚と交換」程度の脳内スパーリングはしました。さてどうなるかな。答えは間もなく。

<b>Creatures: 24</b> 《炎刃の達人》* 4 《恐血鬼》* 4 《炎跡のフェニックス》* 4 《通りの悪霊》* 4 《虚ろな者》* 4 《黄金牙、タシグル》 《グルマグのアンコウ》* 3	<b>Lands: 18</b> 《乾燥台地》* 3 《血の墓所》* 3 《血染めのぬかるみ》* 3 《黒割れの崖》* 3 《樹木茂る山麓》* 2 《踏み鳴らさせる地》 《沼》 《山》* 2	<b>Sideboards:</b> 《致命的な一押し》* 3 《洗面の溶岩使い》* 3 《古えの遺恨》* 3 《血染めの月》* 3 《虚空の力線》* 3
<b>Spells: 18</b> 《燃え立つ調査》* 4 《信仰無き物あさり》* 4 《稲妻》* 4 《集団的蛮行》* 2 《ゴブリンの知識》* 4		

構築デッキ

### Round1 BYE

### Round2 Brunoさん 黒緑 (エルフ) x○x

G1 展開されて、最後はエルフの数だけドレインで14点吸われて終了。

G2 出たエルフを丁寧に除去していったら勝てました。

G3 《背教の主導者、エズーリ》を除去できずに展開され続けて負け。

## 本戦の進行トラブル

12時半には終了した筈の2回戦の終了後に待っていても3回戦が始まりません。そして1時間以上たった13時半過ぎ「技術上のトラブルで3回戦の開始までまだあと1時間がかかります。つきましてはそれを待てない方には本戦参加費の**返金**を行います」というアナウンスが流れる。ざわざわ。

いったい何が…と想像するまでもなく、大会結果管理ソフトWER（正確には公式サイトからダウンロードするものでなく大規模大会で使用できる特殊バージョン）のトラブル。そしておそらくは「入力したデータが消えた」のであり、「あと1時間」というのは大会参加者2779人の2回戦までの対戦の記録をもう1回**紙から全部入力し直す**のだと推定。いやあスコアキーパーの苦勞を考えると胃がキリキリ痛みそうな話です。

## 本戦再開とゴールデンチケットの獲得

予定より早い14時半に「3回戦の対戦が出ました」のアナウンス。会場の歓声と拍手。

**Round3 Clineさん 赤緑（ヴァラコート）** ○○

G1 先手ブンして勝ち。

G2 サイドから入れた《血染めの月》を貼れてやすやすと勝ち。

**Round4 Hugoさん 白青赤緑（人間）** ○×○

G1 ブンして勝ち。

G2 回られて負け。

G3 ブンして勝ち。

## Round5 Yooさん 白青（コントロール） ×○○

- G1 カウンターをされたり墓地から戻る系の《恐血鬼》や《炎跡のフェニックス》を《流刑への道》されて打点が尽きて負け。
- G2 サイドから入れた《洪面の溶岩使い》が早々に着地したり相手がカウンターを使いきった所にクリーチャーが着地して、とどめは《集团的蛮行》で2点吸って勝ち。
- G3 ブンして勝ち。

そしてこの頃に、会場にアナウンスがあって歓声があがる。え、なにになに？と聞き取れた他の日本人参加者に聞くと「今回のお詫びに、モダン本戦に参加してまだ返金ドロップをしていなかった参加者の全員にゴールデンチケットを配布する」とのこと。へえー。

ゴールデンチケットというのは「2018年～2019年に開催されるグランプリのどれか1つに無料で参加できる権利」となるチケットのことです。国は問いませんし、大抵のプレイヤーは今後2年間に他のグランプリにもプレイヤー参加するでしょうし、昨今はプレイヤー参加費は1万円くらいするのが普通なので、つまりこれはそれだけの価値が全員にプレゼントされたわけです。まあ喜ぶべきことでしょう。もちろん僕も使います。

## 本戦終了

これで4-1。を、もしかして2日目に行けるのかな？の流れ。まあ仮にギリで行けても、明日は本戦（リミテッド）に優先参加する自分はドロップすることになるのですが。

## Round6 Joshさん 赤黒緑（ジャンド） ××

- G1 ジャンドつよい。
- G2 サイドインした《虚空のカ線》も引けず、いいように負け。ジャンドつよい。

## Round7 Brandonさん 赤黒（ホロウワン） ××

- G1 こちら先手で第1ターンに《炎刃の達人》を置いたら相手も第1ターンに《炎刃の達人》を置いてくる。その瞬間に双方「あ、ミラーだ」と分かって笑う。従って互いに自分の手をブン回すだけの展開になるわけですが、相手のほうがよく回って、負け。
- G2 こちら先手で手札にサイドインした《虚空の力線》があり他の手札も普通にあったので「キープで」と始めたら相手もキープ。「それでは」とこちらがマリガン終了後に《虚空の力線》を置いたら、ただちに相手も《虚空の力線》を置いてきた。ですよー。双方笑う。従ってお互いに墓地からの復活系が全滅したのでそれを度外視してお互いのクリーチャーはすべて手札から出して殴り合い、また可能な限り除去をしまくる展開に。しかし残念ながら、やはりこちらの回りが悪かったとしか言えずに負け（見覚えのないカードはまったく出なかったです）。でも面白かったですねコレ。

これで4-3。従って本戦2日目の目がなくなったので、あと1回遊んで終了です。

## Round8 Cristpherさん 赤緑（親和） ○×○

- G1 回って勝ち。ただちに《古えの遺恨》と《致命的な一押し》をサイドイン。
- G2 向こうが《大霊堂のスカージ》を出してきたうえ、さらに《頭蓋困い》を装備させ空から12点（同時に12点を回復）で殴ってきたのをどうにもできずに負け。
- G3 向こうが《罨の橋》を置いたものの、相手は手札1枚の状態が続いたのでこちらは《炎刃の達人》をパンプアップさせずにちくちく殴ることを続けて展開したうえ、遂に《古えの遺恨》で《罨の橋》を割って次のターンに総攻撃ができる体制に。このため向こうは《墨蛾の生息地》でアタックをかけてきたうえでこちらがブロックしなかったため、ここで《電結の荒廃者》を起動して他のアーティファクトを食べ続けたうえで、最後にその《電結の荒廃者》自身を生贄にして+1/+1を一気に8個《墨蛾の生息地》に乗せて毒勝ち…しようとしたものの、幸いにしてこちらの手札には《稲妻》があり、土地を立てていたなのでその《墨蛾の生息地》を焼いて勝利。直前のターンにさらに1体《虚ろな者》を出すべくマナを使い切っていたら負けていた。本当に面白いなマジック。

これで5-3で終了。面白かったあー！

## VIP パーティー

本戦 8 回戦を終えると 22 時を回ります。昼間のトラブルにもかかわらず本戦が本日中に終わりそうなので本当に幸いなことでした。そして自分は「Diamond VIP」特典として今夜開催される VIP パーティーの参加権を得ているので、さっそく**タダメシ**にありつくべく移動。ジャッジに聞いてパーティー会場を教えて貰い、入場。

今回は、パーティーに参加している知人もいないようだし有名人に顔を覚えて貰いたいということもないので、入るなり皿を取ってでかい肉を切り分けているシェフの前に立ってローストビーフを 2 枚。一緒にパンとマスタードを取りフリードリンクとともにいただく。旨い。その他、滅茶苦茶甘ったるいケーキを取ったりして少し食べたりして終了。



でかいデコレーションケーキは何やらマジック関係のモノを作っていたので、切り分ける前に写真を撮影しておきたかったのですが果たせず、残念。

## 金曜日終了

23 時半にホテルに戻って、シャワーを浴びてマジック日記など書くと本日も終了。明日はいよいよ GP ラスベガス（リミテッド）本戦です。就寝。

なお、ちえけださんは本日の GP ラスベガス（モダン）を 7-1 で通過できていたため、明日は GP ラスベガス（リミテッド）はキャンセルしてモダン 2 日目に進むようでした。

## 2018年6月16日（土） GP本戦（リミテッド）の日

午前2時過ぎに目が覚めてしまいます。そしてメールをチェックすると、来週の土曜日に自分の代わりに店舗ジャッジをお願いしていた荒井さんから「OK」の返事。女房からは呆れられつつOKを貰っていたので、つまりあとはチケットを買いホテルを予約できれば

**GP シンガポールへの参加が確定**する流れ。このためただちにエクスペディアにアクセスし、しばし検討ののちに今回はスクート（※1）での乗り継ぎ便が良さげであるため木曜に出て火曜に戻る便を確定して、宿のほうもゲイランの安宿のフォーチェーンビュー・ホテル（※2）に決めて申し込みます。まあ、今回に限ってはキャンセルも糞もないのでBookingを利用する意味もなく。総額7万円ほどに。スクートのセールを利用できれば日本からシンガポールへの往復は3万円くらいで行けそうな気もするのですが、4日前の今では仕方ありません。ていうかこの程度の旅費で済んだのはたったの4日前に決めたにしてはかなりラッキーだったと言えましょう。

さらにGPシンガポール主催のPanda EventにてGP本戦…ではなくてアニバーサリー・ドラフトの予選シールド#1と#8のオンライン予約を済ませました。

※1 <https://www.flyscoot.com/jp>

※2 <https://www.expedia.co.jp/Singapore-Hotels-Four-Chain-View-Hotel.h9441007.Hotel-Information>

6時に目が覚めたので、ベッドでごろごろしたり8時に会場入りする白木原さんを送ったりしながらも、自分も8時過ぎには支度をして部屋を出ます。とはいえ自分はまだ余裕なので、まずはまたホテルの1階レストランでの朝食から。

昨日よりは軽めにモーニングのセットをチョイス。ベーコンと目玉焼き2つ。あとポテト炒めなど。これで11ドルは満足の極み。本当に最高だよこのレストラン。



## 本戦シールドの開始

食後にそのままホテルを出て9時には会場へ。本戦を横目にスリープイン構築用の案内に従い、所定のコーナー（隔離区画に座られて32人揃ったらいっせいに移動して構築）に移動してほどなく全員で移動し、パックチェックと構築を開始する。

兜は爆弾でどの色でも入る。不義提案の2発は入れたいけど果たして十分なレジェンドが集まるか…と思いつつ、コモンとアンコモンを見て白サブ黒で。白ウィニーをベースに黒でフィニッシュの構成。

《ベナリアの軍司令》  
《アンティキティー戦争》  
《飢饉の具現、トルガール》  
《ヨーグモスの不義提案》  
《ヨーグモスの不義提案》（フォイル）  
《最初の噴火》  
《多勢の兜》

### 取りレア

#### Creatures: 15

《ベナリアの儀仗兵》  
《善意の騎士》  
《メサ・ユニコーン》\*2  
《ベナリアの軍司令》  
《模範となる者、ダニサ・キャパシエン》\*2  
《ペガサスの駿馬》\*2  
《騎兵呼集》\*2  
《悠久の壁》  
《ジョイラの使い魔》  
《虚ろな者、アゴロス》  
《飢饉の具現、トルガール》

#### Sideboard:

《平地》→《突撃》と交換  
《ウェザーライトへの乗艦》→《飢饉の具現、トルガール》と交換

#### Spells: 9

《突撃》  
《獣血蠟燭》  
《小剣》  
《神聖の発動》  
《臍腑抜き》  
《多勢の兜》  
《最古再誕》  
《ヨーグモスの不義提案》\*2

#### Lands: 16

《愚蒙の記念像》  
《平地》\*9  
《沼》\*6

### 構築デッキ

GP ラスベガス（リミテッド）本戦は2085名。さて、どうかな。

## Round1 BYE

## Round2 Johrdanさん 白黒 ××

G1 回らず負け。

G2 クリーチャー事故で負け。

## Round3 Michaelさん 赤緑 ×○○

G1 土地が少ない事故で負け。

G2 まあ順調に伸びて勝ち。

G3 まあ順調に伸びて勝ち。

## Round4 Arisさん 青赤 ××

ブンブン負け。これで2-2。そろそろここまでかな…。

## Round5 Mannyさん 白黒緑 ○○

対戦相手のプレイヤーはまだ「男の子」でした。プレイも甘い部分があり、まあ快勝。

負けた後で、相手が残念そうにライブラリーの中の《黎明をもたらす者ライラ》を見せてきました。うん。爆弾レアを持っていたけど引かずに負ける、マジックあるある。

## Round6 Davidさん ○○

G1 まあ勝ち。

G2 相手が土地ばかりの事故で勝ち。

## Round7 Emmanuelさん 白赤 ○○

エマニュエルさん！と女性を期待したら兄ちゃんでした（笑）。

G1 ブンして勝ち。

G2 ブンして勝ち。《メサ・ユニコーン》に《多勢の兜》を装備して大量に殴るというひどいこともしました。

を、三連勝で5-2まで戻したぞ。つまり次で勝てれば初日通過。あるいはこれは。

### Round8 Chowさん 白青 ○××

G1 島しか引かない相手の事故で勝ち。

G2 こちらの土地が3枚で止まっての事故負け。

G3 いろいろ裏目に出たり、マナフラッドしまくりでの負け。

ざんねん！惜しくも5-3でリミテッドも2日目に進めませんでした。でも楽しかったあー。

## 一方、その頃ちえけださんは…

自分はこのようにGPラスベガス（リミテッド）は5-3不通過でしたが、ちえけださんは昨日のGPラスベガス（モダン）を7-1で通過できていたことから本日のGPラスベガス（リミテッド）は参加をキャンセルしGPラスベガス（モダン）の2日目に進みました。ここではそのちえけださんの2日目がどんな感じだったかも記しておくことにします。

ちえけださんはラウンド9から始まる2日目です。1敗。しかしながら7-2はまだ十分に上位を狙える位置であることから、ラウンド10では**フィーチャー・マッチ**として呼ばれ、さらにその様子が**YouTube**で**中継**されました（笑）。

<https://www.youtube.com/watch?v=ZlqEVKtDb9o&feature=youtu.be>



フィーチャーで華麗に勝ちを決めた瞬間の  
ちえけださん。

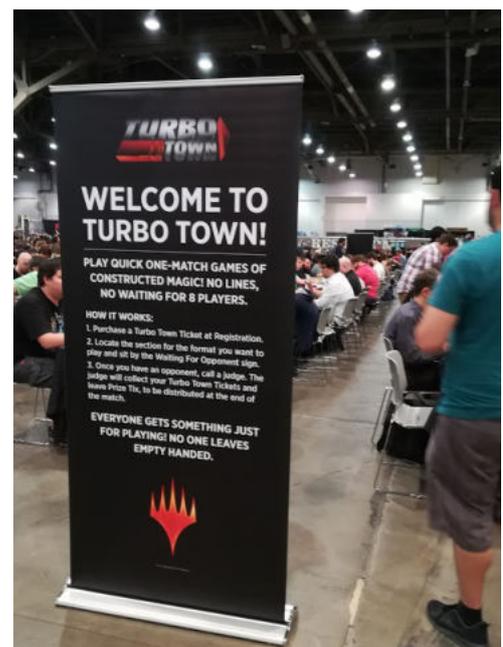
このGP ラスベガスでの最高のひととき  
だったことでしょう。

ちえけださんのデッキは Hollow Vine、つまり《復讐鳶》入りのホロウワンです。そしてこの中継では白青コンを相手に 1-1 ののち、最後は 2 体の《復讐鳶》が走っての快勝。これで 8-2。まだまだグランプリの決勝や上位や賞金を狙えるポジションです。本戦は残り 5 回、ちえけださんはこれからどこまで健闘し、上位を狙えるのでしょうか。…と思ったらちえけださんはラウンド 11 で**遅刻**しあとは**まさかの全敗**で 8-7 終了。なんの成果も得られませんでしたあ！ いやあ、マジックってわからないものですねえ。

## ターボ・タウン

自分は Diamond VIP 特典で初日にターボ・タウンのチケット 8 枚を獲得していたものの初日は「何だこれ」と思っていたわけですが (P.21)、その後でこのチケットの使い方を理解したので今日は昨日の本戦で使用したモダンのデッキを荷物に入れており、そして構築を終えてから 2 回戦が始まるまでの 30 分ほどの合間にチケットを 1 枚使ってみました (なおチケットは 5 ドルで購入することも可能)。

このチケットは以下のように使用するものでした。



- (1) チケット1枚と構築デッキを持ち会場内の「ターボ・タウン」エリアに移動。
- (2) ターボ・タウンはフォーマット（スタンダード、モダン、パウパー etc.…) 別に分かれているので、自分のフォーマットのテーブルに移動。
- (3) そこでチケットとデッキを持ったぼっちの対戦相手がいるなら声をかけ、いないなら自分がその状態でそこでぼっちで待ちます。
- (4) 対戦相手が2人揃ったならば「ジャッジー！」と声をかけてジャッジを呼ぶ。
- (5) ジャッジは2人のチケット2枚と交換に、40ポイント分のプライズチケットを机の上に置いて「じゃ、あとはご自由に」と言ってその場を離れます。
- (6) あとは2人で対戦して勝った方が30チケ、負けた方が10チケを取って終了。
- (7) 勝敗をジャッジに報告する必要は別にありませんし、DCI番号も記録しません。

「ターボ」の名にふさわしく、DCI番号を登録の必要もなく（まあPWPは1点も入りませんが）手早く遊べます。そしてプライズは20ポイントずつでのスプリットも可能。プライズウォールのチケットは「たくさん貯めるほどお得」なレートで交換できるものの、「10プライズ=最新1パック」で交換できるので最低でもその価値はあります。

従って「合計10ドルのターボタウンチケット=40プライズ」はまあ妥当な交換レート。

自分は初日の時点ではこのチケットの価値を認めていなかったもので、8枚貰ったこれを「トークンにでもするか」と思ったものの、実際はコレは40ドル分の価値はあることが判明したので、そんな勿体ないことはできません。明らかにコレは誰かと8回の対戦を行って、その結果として80~240プライズを獲得すべきものでしょう。

…しかしながら実の所、PWPがつくわけでもないゲームに会場でそんなに時間をかけるのは時間の使い方としては「勿体無い」と言うしかありません。参加費をケチりたいのではないのなら、その時間があれば、別のサイドイベントに参加すればPWPも、より多くのプライズも得ることが期待できます（ドラフトで3-0すれば300プライズですから）。

そこで気が付くのが「スプリット可能」であるという1マッチ合計40プライズの構造。

つまりプレイヤー 2 人が合意すれば、実際に対戦しなくともジャッジにターボ・チケット 2 枚を渡して 40 プライズを受け取るなり、お互いに 20 プライズずつ取って「さよなら」すればそんなに時間をかけずに済みますね。これなら手元に 8 枚ものターボ・チケットがあろうと、それほど時間をかけずに 8 回の「対戦」を終えて 160 プライズを得られます。

さらにこの考えを進めれば、あらかじめ合意しているプレイヤー 2 人がいれば対戦相手を 8 回探す必要すらなく、その 2 人でジャッジを呼んでターボ・チケット 2 枚を渡して 40 プライズを受け取ることを 8 回繰り返せば、即座にプライズは得られます。

ここで「カイジ」限定ジャンケンの「引き分け」によるカード消費のことを思い出したあなたは正しい（笑）。

今日は本戦の待ち時間に 1 枚だけチケットを使ってひと勝負しましたが（マナ加速しての歯と爪でエムラクールが走ってきて負け）、ひとつ残り 7 枚は明日この方法で無駄にせず消化することにしようと思いました。

## 夕食

本戦を終えると 20 時。このため会場を出てからスーパーで飲み物を買ひ、ホテル 1 階のレストランで夕食。

今日はステーキよりややお値段控え目のハンバーガーにしましたが、やはり満足の内容。

なおも風邪が抜けていないし、部屋に戻って日記を書いて、22 時半過ぎには就寝。



## 2018年6月17日（日） PTQシールドの日

朝の5時に目が覚める。さすがに睡眠は足りたようです。喉の調子は相変わらずですが。昨夜帰りに「アニバーサリードラフト予選シールド#8」にエントリーをし損ねるという痛恨のミスをした（まあ定員一杯になったそうではありますが）ので、今日はまずPTQシールドにエントリーし、それも駄目だったら終日普通のドラフトの予定です。

時間を潰して6時半になったので、では朝食にしますかと白木原さんと1階レストランに行ったら「朝食メニューは7時からだ」と言われたので白木原さんはスーパーに買出しに行き、自分は部屋に戻りシャワーを使う。ついでに底が見えてきた下着と靴下を洗面所で手揉み洗いしてから部屋に干します。夕方までには乾くでしょう。

ゆるゆると7時過ぎ白木原さんとレストランに戻り、朝食をオーダーしてゆるゆる。

昨日と同じ朝食セットなのですが、ベーコンをソーセージに、パンをトーストに、目玉焼きをスクランブルにしてほとんど別料理。お値段はやはりたった8ドル。すばらしい。



すでに8時には会場入りできませんが、べつに気にしません。PTQは9時45分だし。

8時過ぎに朝食を済ませて会場に向かい、8時半には普通にPTQシールドへとエントリー。

## PTQシールド

時間になったので移動して構築。

デッキは青赤タッチ白のウイザードで。それほど酷いデッキだとは思わなかったのですが。

人間相手に結局1勝もできず、面白い構築内容でもなかったなのでデッキは記録しません

プレイヤーは359人の6回戦。賞品は9ポイント以上で出るので、半分の3勝が必要。言い換えれば4回負けるまでは賞品期待で続けられます。

### Round1 Jacksonさん 白青黒 ○××

- G1 押して勝ち。
- G2 回らず負け。
- G3 土地が3枚で止まって負け。

### Round2 Jamesさん 黒赤緑 ○××

- G1 《氷の干渉器》が無双して勝ち。
- G2 島島島と引いて止まって山を引いた時には手札真っ赤で負け。
- G3 回らず負け。

たちまち0-2。あれれー？ ここまで弱いデッキだとは思わなかったんだけどなー？  
ともあれ次で負けたら、残り全勝にかけて賞品目当てに続けるよりはドロップしましょう。

### Round3 Maniさん NO SHOW

### Round4 Josephさん NO SHOW

まさかの**NO SHOW 2連発**で2-2まで戻す（笑）。まあ2敗したらやめようと思うのはよく分かるのですが。…でもみんな、やめるときはドロップ申請しような！  
ともあれこれで、残り2回のうち1勝できれば賞品ゲットです。がんばろう。

## Round5 Carolさん 白黒緑 ××

G1 除去で殴ってブンブンしてきて負け。

G2 ブンブンされたうえ土地が4枚で止まって負け。

## Round6 Gilbertさん 白赤→青黒緑 ○××

G1 危なげなく勝ち。

G2 相手がデッキを変えたところで、こちらは島島島と引いて（またですか）そのまま土地が3枚で止まって負け。

G3 ドブンされて負け。

結果 2-4 の賞品なしで終了。なんの成果も得られませんでしたー！

## 忘れ物そして忘れ物

先に書いたように PTQ シールドのラウンド 4 は 2 回目の NO SHOW で勝ったわけですが、このときは当然ながら自分の席で対戦の準備をしつつ待って、暇潰しにしばしば机の上に置いたデッキを眠気をこらえてシャッフルするなどして待っていました。

そして 10 分が経過したので「ジャッジー！」と呼んで、自分の机の上の結果記録用紙にサインをして渡したうえで、あとは荷物を片付けて席を立ちました。

ところがその後、隣の PTQ モダンに出ていたちえけださんと次のラウンド待ちの雑談をしている時に PTQ シールドの話題になったので「こんなデッキになったんだけどさ」と見せようとしてデッキケースを開けると**デッキがありません**。

最初は何が起こったのか分からなかったものの、状況を整理すると、どうやらさっき機の

上でシャッフルしていたデッキを、ジャッジに結果記録用紙を渡した後で撤収するときにデッキケースに入れずに机の上に置き忘れてしまったようでした。あほですか。

実はこの前のラウンドでも、プレイマットをうっかり机の上に置き忘れてしまい、次のラウンドで気がついて前の席に見に行ったら、机の上にたたまれてよけて置いてあったのを発見したのでそのまま回収してきたということもありました。ぼろぼろ。

まもなく次のラウンド5が始まるので、真っ青になってPTQのジャッジステーションにすっとなで行くと、果たしてジャッジが「これかな」と出してきました。状況的に忘れていたテーブル番号が分かっていたらプレイヤー2人は分かりますし、ましてNO SHOWであったことからそれには自分の名前の付箋が貼られてもいました。その場でばたばたとしつつも無事回収でき、その足でただちにラウンド5の自席に移動し、対戦しました。

ラウンド5は普通に終了しましたが、その後の待ち時間にスマホを取り出そうとすると**スマホがありません**。改めて状況を整理すると、どうやらジャッジステーションで先ほどあたふたしながらデッキを受け取った時、うっかり左手に持っていたスマホをその場に置いてきたらしいと判断されました。もう泣きそう。

改めてジャッジステーションに行って、こちらに気がついたジャッジに「スマホが…」というところも「あー」という表情をして「Lost&Foundに行け」と言いました。ただしその足で受付のLost&Foundに行くも、自分のスマホは届いていないようでした。

6回戦の終了後に再度ジャッジステーションに行き「スマホを落としたのだが」と言うと「特徴は？」と聞いてきたので「青いケースで青い紐でHUAWAYで」と答えると、果たして自分のスマホが出てきたので「それですそれ」と受け取ります。

結果的にはノーダメージでしたが、おじいちゃんのメンタルはボロボロです。

自分のスマホがLost&Foundに届けられたというのが誤情報だったのか、あるいはLost&Foundから再度こちらに戻ってきたのかは不明です。どちらでもいいですが。

## ドミナリア ドラフト

気を取り直して、終了したPTQシールドを離脱すると17時。  
まだドラフトが1回できるのでエントリーして参加。

《ヤヤの焼身猛火》
《不死身、スクイー》
《鉄葉のチャンピオン》
《養育者、マーウィン》
《再鍛の黒き剣》

### 取りレア

1-1 《再鍛の黒き剣》。レジェンド狙いで行くことに。

あとはレジェンドクリーチャーがいなくても7マナを捻出できるよう、緑がいいのかなとも意識して開始。

1-2 《不死身、スクイー》。除去されても何度でも戻ってくる3マナ伝説。剣にぴったりの1枚。喜んで取る。これで赤緑ランプで行くことにしてピック。

2-1 《鉄葉のチャンピオン》。そこそこ高いし色も合ってる。喜んで取る。

2周目のどこかで流れてきた《養育者、マーウィン》も喜びつつ拾う。マナ加速にもなっている3マナのレジェンド。噛み合ってる噛み合ってる。

3-1 打てればエンドカードの《ヤヤの焼身猛火》も喜んで取る。

…うん、いい感じじゃね？ これは期待できそう。

《密航者、スライムフット》も拾えたので赤緑タッチ黒で。

Creatures: 14	Spells: 10	Lands: 16
《エルフェイムのドルイド》	《鉄葉のチャンピオン》	《沼》
《ラノワールの斥候》	《炎矢師、ハラー》	《山》*6
《ケルドの軍監》	《密航者、スライムフット》	《森》*9
《不死身、スクイー》	《這い回る偵察機》	
《クローサのドルイド》	《ケルドの略奪者》	
《ラノワールの特使》	《マンモスグモ》	
《養育者、マーウィン》	《パーディック山の放浪者》	
		《白熱の一撃》
		《獣血蠟燭》
		《航海士のコンパス》
		《壊れた絆》
		《成長の資質》
		《再鍛の黒き剣》
		《放射稲妻》
		《野生の猛攻》
		《最古再誕》
		《ヤヤの焼身猛火》

### 構築デッキ

### Round1 赤 ○×○

G1 マナが伸びて《再鍛の黒き剣》が誰でも装備できて勝ち。

G2 土地が3枚で止まって負け。

G3 《不死身、スクイー》が早々に《再鍛の黒き剣》を装備できて勝ち。

### Round2 青赤 ×○○

G1 土地が2枚で止まって負け。

G2 回って勝ち。

G3 回って勝ち。

### Round3 トス

チケット（1位300ポイント、2位100ポイント）を、200ポイントずつ分けて終了。

たしか勝ちを譲って貰ったと思いました。

よし！最後は悪くなかったですね。

## 会場離脱

最後のドラフトを終えると19時過ぎ。

今夜はちえけださんとダウンタウンに遊びに行く予定なのですが、それでもやはり歴史的

イベントである20時からの**ベータドラフト**は開始だけは覗いていくことにします。

ということでコーナーに移動するも、当然の人ばかりでよく見えませんし根本的に視力が足りなくて机の上のカードなど見えません。明らかに後から中継映像を見たほうが楽しめそうな感じです。ということで現場の空気を吸ったのでベータドラフト会場を離脱。

そしてまだターボタウンの残りチケットを変換していないことに気がついたので、会場で  
ちえけださんを発見してこのシステム（P.35）を説明するなり、ちえけださんは**即座に  
その意味するところを理解**したので、2人でまだ開いているターボタウン会場へと  
移動して、残りチケットのうち6枚を出してジャッジを呼びます。ジャッジも承知済みで  
あったようで、3回対戦するフリも不要でただちに120プライズと交換してくれました。  
それをちえけださんと協力費として60プライズずつ山分け。ちえけださんに行ってみれば  
5分話を合わせただけで労せず60プライズ（2千円くらい）を得たようなものですが、  
細かいことは気にしない気にしない。

ターボタウン1チケットが余りましたが、もう記念品にでもしてしましましょう。  
すべてのプライズチケットを集めてプレイマットとパックに変換して、会場を離脱。

## ダウタウンへ

ちえけださんとホテルに戻ると20時半。今夜はダウタウンのカジノに行くだけなので、  
部屋に荷物を置き合流…と思ったらトラブルで**ドアの鍵が開きません**。どうもこの  
ホテルのカードの磁気がすぐ飛んでしまうようであり、実はこれまで何度も白木原さんと  
中にいる一方にドアを開けて貰ったりフロントで再設定して貰ったり**カードを2枚**  
貰ったりしてしのいでいたのです。

実のところ、これは総じて満足度がとても高かったこのホテルでの唯一の問題でした。  
なおちえけださんが取った別の部屋はこんなことはなかったもので、やはりカードの問題  
というよりはドアの鍵の問題であったと思えます。

ドアを叩いても白木原さんはまだ戻っていなかったようなので、そのままちえけださんの  
部屋まで移動して、ちえけださんの部屋に自分の荷物を置いて出発することにします。

フリーモントへはタクシーで行く必要があるので、フロントにタクシーを呼んで貰うよう頼むと、おっさんはフロントの出口寄りに立っていた別の客を指差して何か言いました。たぶん「あの客の次に来るタクシーを呼ぶから待て」という意味だと解釈してそのままロビーに2人で座って10分くらい待っていたものの、タクシーが来たという連絡が来る心配がまったくありません。しばらく考えてからもしかして「外へ出て自分でタクシーを拾え」と言っていたのだろうかと思いついて（笑）そのようにしました。ホテルのフロントがタクシーを呼んでくれないとは想定外でした。ホテルを出た大通りで流しのタクシーを見つけて手を上げて、普通に乗車に成功。

あとでこの話を白木原さんにしたら「あれ？確かラスベガスでは、指定の場所以外での流しのタクシーは禁止だったのでは」と言われました。大通りでもホテル前ならOK？

## タクシーのチップ

タクシーの中では運転手のおばちゃんと、にこやかに「どこから来たんだいミスター」「ジャッパーン！」とかいう楽しい会話を交わしつつ、フリーモントに着きました。メーターが12ドル弱だったので降りる時にまあこんなもんかなと13ドルを渡して降りようとする、おばちゃんが一転して**すごい剣幕**で「チップが足りない」と言い出しました。少し押し問答をするも、絶対にこれでは済まさないという強い意志を感じます。しゃーねーなあこれだからメリケンのチップ制度ってイヤなんだよと思いつつ、財布にはもう1ドル札がなかったので5ドル札を含め15ドルで渡すと、おばちゃんはにこやかに「サンキュー」と言いつつ**お釣り**1ドルを返してきました。確かにメーターのところには小さく「チップ15%込みならこの額」と表示されてたのに後で気がついたものの、固定額を要求するのなら最初からそう書いて欲しいな。…やっぱり、メリケンのチップ制度って、あんまり良いものだとは思えません。

## フリーモント

フリーモントでの、夜でも明るいこの狂騒ぶりは、やはり自分がラスベガスの中では一番好きな場所だよと思いつつ歩きます。

食事やカジノの前に、まずはいつもの様に土産物屋で**下品なジョークグッズ**をお土産に買ったりします。

購入したグッズには、ただの女性ヌードのトランプや男性ヌードのトランプ（これは女房へのいやげもの）、その他。



これはエロジョークグッズの中では上品なほうの「Ring for SEX」。つまりパートナーとやりたくなったらこれを鳴らして「ねーSEXしよーよー」と呼びかけるというものです。どこが上品だ。これを店頭でチンチン鳴らして遊んでいたら、見知らぬ黒人のオッサンが僕を指差してゲラゲラ笑っていました。

他、本誌に載せるのは憚られるものも買いました。

さらに、ぶらぶら歩いてえっちな格好のコスプレイヤーを眺めて楽しんだりもしました。

コスプレイヤーにチップを渡して自分と写真を撮って貰うことは今回はしませんでした。

フリーモントを歩くのはやはり楽しいものですが、それはそれとしてそろそろ夕食にするべき時間です。カジノでも遊ばなければなりません。

## 夕食

夕食がまだだったので高くなさそうな店にちえけださんと入り、料理を注文。会場でもつまんでいた自分はそれほどは空腹ではなかったものの、ちえけださんは空腹であったようで、普通にステーキを頼んで食べた後で、**さらにピザを注文**しました。



昔ピザを頼んだ時に厚さ 10cm ほどの奴が来たこともあった自分は「大丈夫かな」と思ったものの、でかいものの薄手のクリスピー生地で大丈夫そう。



メイン料理が少なめであった自分は、普通にお相伴をして何切れかつまんで 2人で完食し、自分がつまんだぶんを適当に勘案しつつ支払いを終えて終了。

食事が終わったら、いよいよ本日のメインイベントである、カジノです。

## カジノで勝利

今夜のカジノは、1年前に来てディーラーがカウガールのおっばいだったし、テーブルのミニマムは5ドルであったのでいたく気に入った店にしようと思ったものの、店の名前と場所を覚えていなかったしフリーモントを一周しても西部劇風のテーマカジノなんてないよなあ…ということでそれらしい店がしばらく発見できず。

諦めて、それではこの外の台上で**ビキニのおねえちゃん**がくねくね踊っている店にしようと思って入ると、あれ、探してたのはここだったっけかな？な感じの店内。

ディーラーはカウガールでこそなかったものの、十二分に**おっぱいを強調**した衣装でありテーブルのミニマムは5ドルでチップには女の子の写真。1年前に遊んだ店がここであつたかはともかくシステムは同一であり、ここで遊ぶうえで何も支障はありません。

なお今後のために店の名前を書いておくと、ここは「Golden Gate」というカジノです。

そしていつものように種銭 100 ドルを出して 5 ドルチップの 20 枚にしてから、ちびちびと 1 枚 2 枚とそれを賭けて勝ったり負けたりを繰り返しました。

そして今夜の自分は非常にツイていたようで、チップがなかなか減らずに増え基調で原点を超え、さらに増えました。

今夜のちえけださんはツイていなかったのでマイナスで終了したタイミングで自分も終了。

キャッシャーに行く前に 5 ドルチップ 20 枚を 100 ドルチップに替えましたが、金色の 100 ドルチップなんて初めて見ました。

そしてトータルは…ええと、この写真だと

142 ドルありますね。つまりトータルで **42 ドル勝ち**しました。



基本的に高等テクニックを必要とせず、とってスロットのような完全な運任せでもなく、自分である程度「選択」をして結果を左右したような気分になれて、実際に運が良ければよくても勝てるブラックジャックのテーブルはやはり本当に楽しいものだと思います。

なおインシュランスとか細かいハウスルールには、一切手を出さないスタイル。

## ホテルに戻る

ちえけださんとカジノを離脱し2人で普通にタクシーを拾います。タクシーの運ちゃんは「マルディグラ」で分からなかったようなので、仕方ないので「ウエストゲートまで行きさらに少しだけ南」と言って誘導しつつ進みます。いっそ、その先のスーパーまで行っておろして貰おうかとも思ったものの、マルディグラを発見したタクシーはそこで停まってしまいました。まあ仕方ありません。

ホテルへのタクシー代は22ドル。コースも違うし深夜料金を含んでもいるのでしよう。今夜は自分が勝ってちえけださんが負けたので、タクシー代は折半でなく自分が全額奢ることにしました。まあそれで半分消えてしまうほどの勝ちなのですが（笑）。

それから改めてスーパーに行って夜の飲食物を買って戻り、ホテルに到着。

ちえけださんは僕らより1日早く明日早朝にホテルを出て空港に行くのですが、さすがにその時間はタクシーをホテルまで呼んでくれる模様。この辺、いささか気がかりですが。

ちえけださんが「5時に起こして」とか抜かすのを**スルーして**別れて終了（笑）。

## 楽しい日曜日が終了

ホテルに戻ると午前2時。白木原さんは部屋に居ました。シャワーを浴びます。

自分は明日は「グランド・キャニオン」へのバスツアーを予約したので、基本は明日朝にホテル前に迎えに来る筈のバスに乗って行くだけなのでした。

バスツアーは合計12時間で、バスは片道4時間くらいかかるらしいので、じゃあ明日はバスの中で寝ていればいいやとも思ったので、急いで寝なくていいかなな気分。

そして今日のマジック日記を1時間くらいつけても、まだぜんぜん眠くありません。

どうも白木原さんもまったく寝る気配がなかったので（いつ寝ているのか）白木原さんとマジックの話をしたりその他のよもやま話をしながら朝を迎えることになりました。

（このまま、月曜日の日記につづきます）

## 2018年6月18日（月） グランド・キャニオン バスツアー

実は白木原さんとお話をしつつ朝を迎えたのには、もうひとつ理由がありました。

自分はエクスペディアで本日のバスツアーを申し込んでいたのですが、それには「朝7時半からのツアー。ホテルまで当日朝に迎えに行きます」と書いてありました。

しかしこれでは朝の何時に迎えに来るかよく分からなかったため、事前にメールで「確認なんですけど自分はマルディグラの前で朝何時に待ってればいいんですか」と質問をしたものの「あなたの予約は確認されました」とだけあって質問への**答えはなし**。

さらに送られてきたリンク先に「当日の朝の主要ホテルでのピックアップの巡回予定」のホテルと時刻の一覧が掲載されていたものの、マルディグラの名前は**リストになし**。

その中に「ウエストゲート6:05」というのを発見したので、あるいは朝6時にウエストゲートの前で待とうとか考えたものの、一瞬後に「この日のツアーの客にウエストゲートからの客がいなければバスが立ち寄るわけがない」と気がついてそれも中止。

結局は、位置関係から朝の6時頃と推定できたものの、確定情報はありません。

このままでは普通にピックアップに失敗してツアーおじんの可能性が予見されたので、少しだけ悩んだすえにツアー会社に直接**電話をかける**ことにしました。時刻はすでに午前3時を回っていますが、その旅行会社は24時間営業しているとあります。

今回購入したSIMはデータ通信は2日でまったくできなくなりましたが（P.25）、市内通話は普通にかけられました。この点は非常に助かりました。

電話をかけて自分の予約番号を伝え「で、結局自分はマルディグラの前では朝の何時に待ってればいいんですか」と用件を伝えると、普通に話に通じて「6時50分」という答えを得ました。「オーケー6時50分だね」と伝えて電話を切ります。

やれやれ一件落着だな、と思いつつ引き続き白木原さんとマジックの話をしているうちにしばらくして「待てよ」と気がつきました。さっきの電話口で自分は6時50分と聞いてそれを相手に再度確認もしたのですが、もしかしたら自分のヒアリングとスピーキングの能力からしてあれは**6時50分（フィフティ）でなく6時15分（フィフティーン）の間違いだっただのではないか**という単純な可能性にです（笑）。

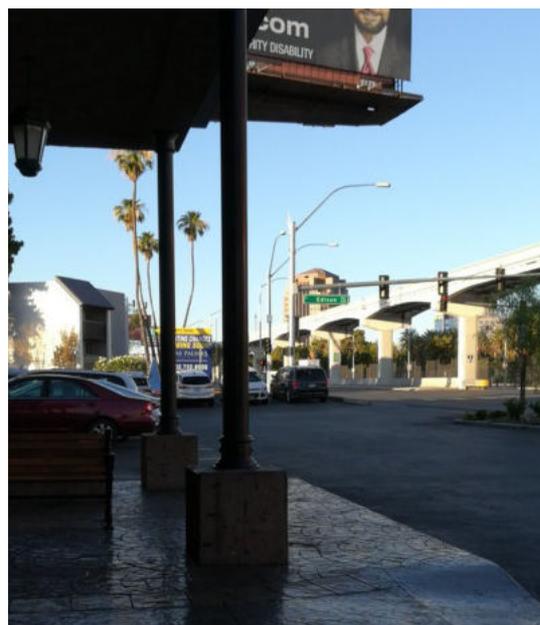
再度確認するのも何ですし、ウエストゲート6:05なら明らかにマルディグラは6:15と考えるほうが自然なので「6時15分にホテルの前で待って、もし来なくてもそこで6時50分まで待っていればいやグラブルもできるし」という結論になりました。

このためもう寝るつもりはなかったものの、予定を少し早め5時半頃には支度をして6時には部屋を出ることにしました。もう4時を回っていたので白木原さんと雑談をしながら1時間ほど潰すだけ。本当にちえけださんを5時に起こしに行っても良かったな（笑）。

後で気がつきましたが午前5時に正確な集合時間のメッセが届いてました。遅いよ。

## ピックアップ・バスに乗車

6時には部屋を出て、ホテル前のベンチに座って待ちます。すでに明るいさわやかな青空の朝で、待つのは苦になりません。ちえけださんは無事に空港へのタクシーを呼んで貰えたのかな、もう24時間後は自分も空港なのだなと思いながら、ベンチに座って待ち続けます。



しかし6時15分になっても、バスは来ません。やっぱり6時50分だったのかなあ、20分まで待っても来なかったらいったん部屋に戻ろうかと

思って席を立とうとした6時20分過ぎにバスが来ました。あっぶねえええ！

乗車しながら運転手に自分のバウチャーのプリントアウトを渡すと、それをチェックしてバスは発進しました。どうやら**最後のトラップ**もクリアして、このバスツアーに参加し損ねることはなくなったようでした。片道4時間もあるなら寝ましようかね。ぐう。

## バス集積所

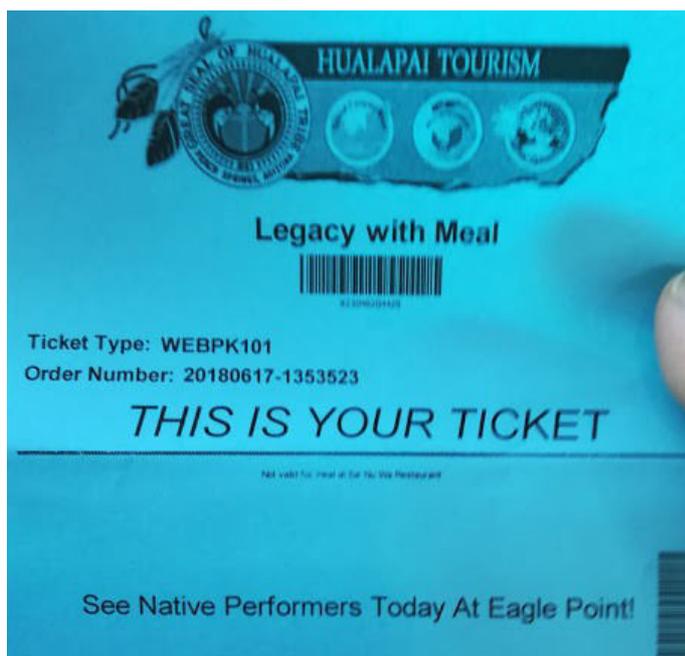
自分は座るなり4時間熟睡の構えで居たのですが、しばらくすると誰かから起こされて「降りろ」と言われます。寝ぼけながら「え、なになに???'とばかりに荷物を持って降りると、そこには何十台ものその旅行会社のバスが停まっていた。

寝ぼけ顔でポカーンとする僕に、親切な他の乗客の夫婦が「バスを乗り換えるんだよ」と教えてくれました。思わずその夫婦についていくと、その夫婦はある番号のバスで何かを受け取って乗車します。

一瞬、自分もそこについていって一緒に乗車しかけるも(笑)、ここで「市内でピックアップするためのバスと、ツアーのバスは別」「いろいろなツアーのバスがある」「市内バスに乗っていたのは同じツアーの客だけではなかった」という事実気がつきます。

では一体俺が乗るのは何番のバスなんだとも思うも、ここまでのトラップをくぐり抜けた自分には恐れるものは何もありません。ただちに適当な係員をつかまえて「自分は何番のバスに乗れば良いのですか」と質問し、係員と奥に行き行ってプリントアウトの名簿を調べたうえでバスの番号を知り、名簿をチェックしつつ紙と袋とジュースを受け取って乗車。

紙に書いてある内容はこの時点ではよくわかりませんでした。自分の予約番号があり、どうやら今度こそ自分は乗るだけでグランドキャニオンに行けそうでした。袋はスナックとかパンケーキとかバナナの詰め合わせ。これが朝食だということなのでしょう。



## バスツアーの開始

バスのドアが7時半に閉まります。なるほど「7時半からのツアー」というのはこういう意味だったのか。ホテル前で7時半に待たなくて良かったなあ（笑）。

運転手がただちに大きな声での自己紹介に続いて、非常に軽快な喋りでガイダンスを開始。最初の名簿確認で名前を呼ぶだけでもノリノリで、客もノリノリで「イエーイ」とか答えます。ぼくもそうしましたよ（笑）。

バスが発進しても運転手の喋りは停まらず、これからの予定などをアメリカンジョークを交えて喋り続け、しばしば笑いを取ります。まあ僕には十分に聞き取れなかったものの、楽しい雰囲気にもまれながら、朝食の袋を開けてもぐもぐし、ペットボトルのジュースを飲みます。楽しい雰囲気にも眠気も起こらなかったのもそのまま聞いていたのですが、そのペースと大声で**30分喋り続けた**のには驚きました。プロすげえ。

## フーバー・ダム

8時になると運転手が少し声を潜めながら「この先でアリゾナ州への検問を通る。係員がバスに入ってきたらお前らは怪しまれないようニッコリ笑って『ハイ』と答えるんだ」とジョークを飛ばし、そのようにしたのち、バスはフーバー・ダムへ。

せっかくなラスベガスに来たのだから時間の取れる今回はグランド・キャニオンにも行ってみようと思った程度でエクスペディアでの安いバスツアーを選んだので内容はあまり熟読しなかったものの、今回のバスツアーはフーバー・ダムへの観光を含んでいたのです。

フーバー・ダムというのはでかい建造物があるだけなので関心のない方はそれほど面白いものでもないかもしれませんが（まあそれを言ったらグランド・キャニオンもそうですが）が、かつてゲームのCivilizationシリーズで何度もフーバー・ダムを建造したことのある

自分には、これは割と**ご褒美**とも言えるものでした。

遠くから見えてきただけでもワクワクです。休憩所では、ほんの15分ほどしか時間がなかったのでトイレに行って売店を覗いてあとは記念撮影くらいしかできなかったのですが、ともあれ楽しかったですね。このバスツアーにして良かったな。まあその割には特にフーバー・ダム土産も買わなかったのですが。



## グランド・キャニオンへ

8時半にフーバー・ダムを出て、バスは東を目指します。さすがに運転手はもうそれほど喋りまくりませんので、車内はやや落ち着いた雰囲気です。

9時過ぎに別の休憩所につき、ここで20分の休憩。トイレと売店を覗くくらいしかないわけですが、実のところこの時点でもまだ喉をひどく痛めて咳をしていた自分としては、売店でホールズを買ってなめなめしていました。痛んだ喉にしみるミント味。

9時半に休憩所を出ると、今度はこれから訪れるポイントでの「スカイウォーク」の案内などのビデオ（建造の様子とか）が車中で流されていました。正直なところ自分はだいぶ寝ていましたが、いよいよグランド・キャニオンも近いようです。

そしてどうやら10時45分に、バスは目的地に着いたようでした。

「じゃあ**3時間後**に迎えに来るから、あとは好きにいな」と言われておろされます。よく分かりませんが、これからいよいよ本日のメインイベント、グランド・キャニオンの観光が始まります。

## ウエスト・リムへようこそ

事前調査ゼロでここまで来た自分は、バスを降りたら目の前にグランド・キャニオンの光景が広がっているのかなと思ったのですが、実際に目の前にあったのは、土産物と休憩所の建物とバス停、それにヘリコプター多数を備えたヘリポート施設でした。



ここで「えっ、どういうこと？」と本日何度目になるか分からない自問をしつつ、最初に渡されたチケットに付属していたコピーの図とその説明を休憩所で座って読み、どうやらこのシステムが分かってきました。

どうやら図の中央にある「AIRPORT TERMINALS」というのが「現在地」であり、ここから「#1 HUARAPAI RANCH」「#2 EAGLE POINT」「#3 GUANO POINT」という3つの場所にバスで行ける模様。バス乗り場は一箇所であることから、1台のバスがこの3箇所をその順番で巡回するようです。そしてこの3箇所を含んだこのへん一帯が、グランド・キャニオンでの「ウエスト・リム」と呼ばれる観光地のようです。グランド・キャニオン（西側）の観光ツアーというのは非常に多くの種類があるわけですが、それはどうやら全部ここで降ろされ、ここから先が異なるツアーなだけのようでした。

あるいはここまでバスで来るか飛行機で来るかによっても料金が異なるのでしょう。

そこで改めて渡されたツアーのチケットなどを確認すると、自分には「イーグルポイントでの昼食」がついておりオプション「スカイウォーク」もあったことから、基本は#2に行くツアーであったことが分かります。とはいえ別に#1や#3に寄っても構わなそうであり、何ならここで何百ドルか払えば、ヘリに乗ってグランドキャニオンを一周することすらもできそうでした。なるほど理解した。

## イーグルポイントへ

ヘリに乗るのは論外としても、#1や#3では何があるのかな…と思って見ると、#1では「ネイティブ・アメリカンの村で**馬に乗る**」オプションツアーも選べる模様。これはこれで非常に面白そうでもあったものの、トータル3時間（しかもすでに30分は使ってしまった）であるのと全体のスケール感が不明であったことから、まずは#2からクリアする必要があるよな**タダメシ**もあるし、と思って#1はスルーを決定。

ともあれ他の観光客の後をついて行ってバス停の列に並び、受付で自分の青いチケットをバーコードリーダーにかざしてチェックしてバスに乗車。

バスは5分ほどで#1に着き全体でも30分ほどで一周できそうだったので、乗馬はともかく降りてみようかなと迷ったものの、迷っているうちにバスは出てしまいます。そして10分ほどでバスは目的地である#2のイーグルポイントに到着しました。

イーグルポイントはいわゆる僕らが想像している「グランド・キャニオン」の光景の観光ポイントのようでしたので僕は「へー」と思いつつ歩いて進んでからその1mくらい手前で**手すりも何もない断崖絶壁**がそこにあることに気がつきました。

高所恐怖症の僕は気がついてからいきなりガクガクブルブルしながら後ずさります。しかしそれをものともせずギリギリまで近づいて下を見てキャッキウフフしたり自撮りをする観光客も多数。

さらに写真にこそ撮らなかったもののさらに攻めたポイントで攻めたポーズを撮り友人に写真を取らせている兄ちゃんとかもおり。僕は高所恐怖症に特有の「そんなの、よろけて倒れたら落ちて即死じゃん」という妄想に震えつつ遠くから見ているだけでしたが、まあそういう恐怖をものともしない（あるいは感じない）方も普通におり。



自分の記念写真はやはり欲しかったのでそこから10mくらい離れた所の看板の前で他の観光客に頼んで写真を撮って貰いましたが、こんな絶対に安全な所でも**顔がひきつっている**自分。



イーグルポイントで一番人気のスポットは、強化ガラス製の張り出し通路を「下の絶壁を見ながら歩く」という「スカイウォーク」であり、実際にコレへのオプションツアーもあり売店チケット売り場も長蛇の列ですが、もちろん自分はこれはパスします。

頭ではコレが工学的に計算された絶対安全に作られたものでありそこを歩くことには何の危険もないと理解しているのですが、それでも足元のガラスが割れるという妄想に怯えて足がすくんで歩けない未来も予見できますので（高所恐怖症の方は分かると思う）。

## 昼食

そろそろ昼食にしよう、無料の昼食ってどこかなあ…と思って売店の2階のレストランでチケットを見せると「それはあっち」と外を指差されます。そちらに行くと少し探すと、フードコートのような露天エリアがありました。

選択肢は多くなさそうであるもののカウンターがあったので、並んでチケットを見せつつチキンメニューをオーダーし、暖かい弁当皿とペットボトルの水とオレンジ1個を乗せたお盆を受け取りました。それを手に持ちつつ空席を探して、着席。

さっそくフォークで料理とライスを口に運んで食べ始めたものの…うーん…暖かい料理でこそあるものの、なんというかこの**おいしくない機内食**な感じ。

ツアー代に入っている体感無料の食事とはいえ、ちょっと（だいぶ）トホホな気分です。

これは**ゴミ箱に捨てて**さっきの2階にあったレストランで外の景色を眺めて20ドルくらいのステーキを食べようかなあといささか検討します。まあ、やりませんでしたけど。

料理を完食しオレンジも食べ終了。皿をゴミ箱に捨て、手をふいて半分くらい残っていた水を持って席を立ちます。



## ガード・ポイント

昼食後に土産物屋を覗き、さらにはネイティブ・アメリカンが歌っているステージを覗いたりしたものの（箱に1ドル札を投入）、どうやらここはもういいかと思えたので#3のスポットである「ガード・ポイント」に向かうバスに12時半に乗ります。

バスは10分かからず到着。この見所は一体何だろうかと思いつつハイキングコースやレストランをスルーして探すうちに、何やら高台が目に入ります。他の観光客に混じって岩山を上ると、なるほど。

**ここはいい**ですね。

右の写真はネタを割っています（右下にひとが座ってます）が、ここは一見すると断崖絶壁に見える構図の写真が撮れるのですが、実はこの岩を頂点としたなだらかな傾斜の丘なので、この



僕ですらまったく恐怖感を感じません。なのでこうして満面の笑みで両手を離れた写真を撮ることも可能。逆立ちした写真を撮っているひとも居ました（笑）。

他にやることはないので20分ほどでバスに乗りましたが、来て正解でしたねここは。

## グランド・キャニオン終了

バスは13時に最初の場所に戻りました。30分もかからずに一周できそうなので、いっそのまま下車せずに再度#1に行こうか（乗馬は論外にしても）とも思ったものの、集合時間が13時45分なので、さすがにそれは厳しいので見送って下車。

残り30分は、このままここで時間を潰すことにしましょう。売店で冷凍アイスを買ってたべたり（おいしかったです）、女房への土産を買ったりしながら過ごし、13時40分にバス停に戻り、バスに乗車。

当然のように13時45分の時点では居ない人間が多数なので運転手は点呼で確認ののち

「14時に居ない奴は**置いていく**」と宣言。まあお金を出せば普通に帰りバスの切符を買えるのでしょうし、実際には14時にはほとんどの人が戻ったようですが。

バスは14時に出発し、さすがにあとは帰るだけなので運転手も基本、静かです。ぼくも普通に眠ることにしました。

途中、15時15分に行きとは別のスタンドに立ち寄ったので、飲み物などを買ってトイレ休憩を行いました（ここで特にほかに書きたいことはないです）。

## ラスベガスに戻る

再びバスに乗って寝ていると、16時半には「ラスベガスに戻ったぞ」というアナウンス。

片道4時間かかると思ったら、フーバー・ダムに寄ったりしなければ、実際には2時間半しかかからなかったんですね。こりゃいいや。

バスはラスベガス市内で、これから停まっていくホテルの順路をアナウンスします。当然ながら自分のマルディグラも後ろのほうでアナウンスされました（バスは南側から市内に入ったようでした）。

それからルクソール、エクスカリバー、と停まり、その都度何人かが降りていきます。

このバスツアーは「12時間ツアー」だと聞いていたので、ではホテルに帰るのは20時頃なのかな、では夕食にして今日も終了かなあ…と予定していたものの時計はまだ17時前。

これはどう見ても**もうひと遊びできる**という結論になったので、バスが次のMGMに停まると自分も降りて「自分はマルディグラの予定だったがここで降ります」と伝えます。運転手は了承。これでたぶん、マルディグラに無駄に寄ることはないでしょう。

バスを降りて、これで今回のグランドキャニオンのツアーはすべて終了です。

ツアーに参加した他の方の評判などを聞いて「バスは時間がかかるからラスベガスから飛行機で行くツアーのほうが数万円かかっても楽しいんじゃないか？」とも思ったものの、自分にはこの1万円ほどのツアーは大変に満足の行く費用対効果でした。もっとも別に人生観が変わったという程でもないので多分わざわざ**もう来ない**とは思いません（笑）。

## フーターズ・カジノでブラックジャック（2回目）

もうひと遊びするためにMGMで降りた、というのは言うまでもなくフーターズ・カジノホテルで遊ぶことを意味しています（笑）。まっすぐフーターズへ向かって、ミニマムが5ドルテーブル台の空席を探しつつ、ディーラーのおねえちゃん（たまにおばちゃん）の容姿を検討したうえで座ります。

ここでいつもの様に財布から100ドル出して5ドルチップ20枚に変換し、あとはそれを1枚2枚ずつちびちび賭けて、増えたり減ったりを楽しみます。

残念ながら今回の自分はツイておらず、チップは次第に減り続けついに**最後の1枚**になりました。普通に「まあこれをすったら帰ろう」と思いつつ勝負したら、勝ち。別にちえけださんのようにそこから倍々で賭け続ける（P.24）ことはしなかったものの、同じペースで賭けていてもそこからは基本、勝ちベースで進んでいつの間にか**原点越え**。ここで止めておけば良かったものの、チップが120ドルになったあたりで「150ドルになったら止めよう」と**欲を出す**も、残念ながらそこから再度の負けベースに転じます。再度の原点割れをしたところで止めておけばまだ良かったものの、そこで止めないまま50ドルを切っても続け、ついに最後の1枚に。しかし再度の奇跡は起こらずに、それを失ったので終了。今夜は100ドルの負け。いやぁギャンブルって怖いなあ（笑）。とはいえ結果的に100ドルを失いこそしたものの、これで3時間もの間、勝ったり負けたりをハラハラしながら繰り返し、しかもたった1回の勝負にも5-10ドルという少なくない金額を賭けハラハラしながらのそのうえ、勝つ可能性すら普通にあり、そしてその3時間の間は**おっぱい鑑賞し放題**であるわけなので、やはり自分としてはそれほどミニマムが高額でないブラックジャックは、そんなにコスパの悪くない遊びだよなと思う次第なのでありますよまる。

しかし実のところ、ミニマム5ドルの貧乏人向けのおっぱいカジノとしては、愛するフーターズより昨夜のゴールデンゲートのほうがだいぶ良いです。ゴールデンゲートは5ドル賭けて自分がブラックジャックを出すと2.5ドルのボーナスをくれるのですが、これがフーターズではたった1ドルしかくれないのですね。この差はでかいです。あとゴールデンゲートでは、店内を流れるダンスミュージックに合わせてディーラーの女の子がノリノリでくねくねと乳ゆれ踊りながらカードを配るという習慣があるようなのですね。まあ女の子のノリと乳ゆれ度踊りっぷりには個人差はあるのですが、少なくともそれはフーターズにはない嬉しいサービスだよなあと思ったり。

## ホテルで夕食

フーターズで負けたので、とぼとぼMGMまで歩いてからモノレールに乗り、ホテルに戻ると20時半。

夕食にしましょう。そのままホテル1階レストランへ。

今夜は最終日なので少し張り込むか…と思ったので少し奮発してリブステーキを注文しました。といっても18ドルしかかかっていない夕食なのですが。



内容は普通にうまいステーキであり、やはりマルディグラ最高と言わざるを得ません。

18ドルって2千円なわけで、日本でも2千円あれば安い店ならそこそこのステーキは食べられるよねっていうのはあるのですが、ちょっとした軽食でも千円は超え、ゲータレードの500mlペットボトル1本が4ドルもするメリケンではやはり「安い」という感覚を持つのが普通だと思います（まあむしろゲータレードがくそ高いんですけど）。

なお肉は完食しましたが、ポテトと野菜を含めて完食するのは今回は放棄しました。別に喉風邪の影響が腹に来ている感じはなかったのですが、あの昼飯が少し重かったかな？

## 荷造りを終えて終了

食事を終えて部屋に戻ると21時を回ります。シャワーを浴びて、昨夜メモしたマジック日記を推敲してアップロードすると22時。

それから荷造りをすると日付が変わる時間になりました。明日は8時のフライトなので、6時にはホテルを出たいところです。5時間眠ることにしましょう。

## 2018年6月19日（火） さらばラスベガス

まだ寝ていてもいい午前3時過ぎに目が覚めてしまいます。あと2時間ほどだからPCを起動して暇を潰していようかなー、とでも考えている矢先に、実はこの時点でまだ部屋に戻っていなかった白木原さんが帰ってきました（笑）。

そのまま白木原さんと雑談。「今年のGPラスベガスもまあ面白かったけど、基本去年の繰り返しで新しいチャレンジもなかった感じ」「アーティストの人数も減ったし、サイドイベントも18時に締め切っちゃうしジャッジも多くないし、なんだかフツートのGPって感じ」「そらまあアニバーサリードラフトは凄いつつ凄くけど、これもラスベガスだけじゃなく千葉でもやるしねえ」とか感想を話していたら、白木原さんから「ウイザーズとしては、今後はラスベガスでなくシアトルに力を入れるらしいです」という情報。なんと。どこかにその旨の記事も出ていたみたいですね。

この情報の真偽は不明ですが、そっか…2013年のGPラスベガスがあまりにも新鮮で面白かったので、以後は必ずGPラスベガスには来るようにして今回が4回目の僕なのですが、もしかしたらGPラスベガスは**今回で最後**かもしれません。まあグランド・キャニオン観光もできたので丁度いいのかもしれませんが、来年からはGPシアトルに参加することになるのかもしれませんが（笑）。

さらに帰国後の翌日にはシンガポールに行くことからスクートの予定を再確認し、標準の荷物制限が手荷物の10kgというのは、行きは大丈夫だが帰りの荷物はオーバーするかもしれないなこのラスベガスでも**プレイマット12枚**を持ち帰るのだから（笑）、とも思えたことから、保険の意味で荷物増量のオプションをぼちる。3500円ほどかかるが、当日に荷物がオーバーすると倍は取られるからなあ…さらに直行便でなく経由便であれば、さらに2倍になる可能性も（涙）。このため、やはり帰りは荷物増量オプションをつけることにしたわけです。これで20kgまでオーケーですから、さすがに大丈夫でしょう。

## マッカラン空港へ

結局それから白木原さんと話をしている寝なかったので（まあ飛行機の中でいくらでも寝ればいい）、部屋を5時に出て荷物を引いてフロントへ。まだ部屋にもう少し後に出る友人が居ると伝えたくてチェックアウトの手続きを完了。特に追加課金の類はなし。さらにフロントにタクシーを呼ぶことを依頼して、外で10分待てと言われたので、言われるままに外のベンチに座って待ちます。

この時間ですでに夜が明けて明るい中を10分くらいすると、果たしてタクシーは普通に来ました。デルタ空港（ターミナル1）であることを伝えると、そのまま渋滞でもなく10分くらいでタクシーは空港に着きました。チップ込み18ドルを払って終了。

デルタ空港の自動発券機にパスポートをかざしてチケットを発券してもらい、5時半にはカウンターに荷物を預けて身軽になりました。帰りの荷物は途中で受け取る必要はなく、成田空港まで直行です。

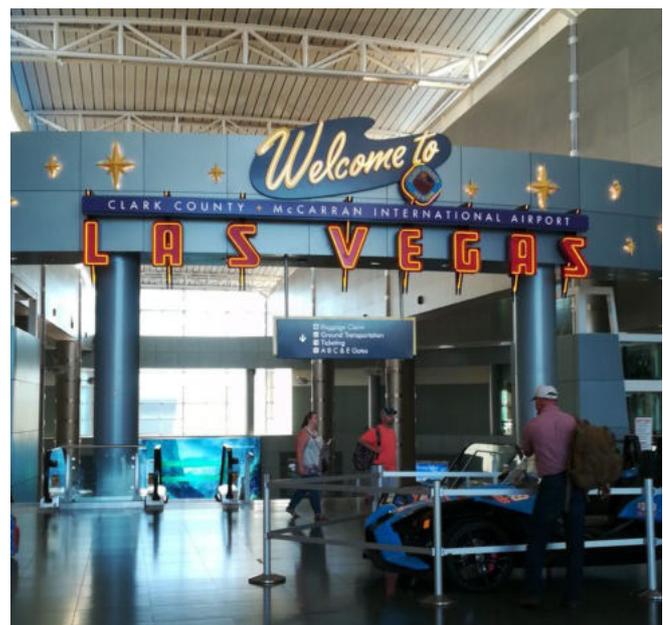
もともと当初の予定では今頃起きる予定であったとはいえ、あとは暇を潰しながら待っていればいいだけです。ではD43ゲート前まで移動してから朝食にしましょう。

## ゲート前で朝食

6時にセキュリティを通過し、Dゲートへのシャトルに乗って移動。

ゲートの位置を確認してから朝食にすることにしましょう。

ゲートの位置を確認できたので、近くの適当なハンバーガー屋に入り、オーダー。座って待っている間に、いい感じに眠く



なってきました。たぶん搭乗するなり爆睡できそうです。

6時半、ハンバーガーセット到着。

いただきます。もぐもぐ。

…あるいは眠いコンディションのせいかもしれないませんが、バーガーが脂ギトギトで、イマイチでした。

散らばった野菜とポテトは残して終了。



## さらばアメリカ



あと1時間くらいあるので、いつものように空港のスロットマシンで、時間潰しに10ドルくらいすっていくことにしましょう。

…その通りに終了。特に書くべきことはありません（笑）。

7時半、搭乗開始。では通信を切って移動することにしましょう。

あるいはもしかしたら今回で自分がラスベガスに来るのは最後かもしれませんが、さらばラスベガス。いつものように楽しかったですよ。

8時に離陸。8時半にお菓子と飲み物が出たものの基本的には機内は眠り、10時40分にシアトル到着。そして普通にシアトル空港ではSゲートにシャトルで移動したうえで乗り換え、ほとんど待たずに搭乗し、11時47分シアトル発。さらばアメリカ。

## 2018年6月20日（水） 帰国

ほぼ19日の正午にシアトルを出て、成田空港までは10時間ほどの空の旅です。今日の基本は帰るだけ。水平飛行に移行したあとの12時50分に飲み物と菓子が出たのち13時40分に昼食が出ました。いただきます。



そして昼食ゴミを回収した後の14時半、ペットボトルの水が配られたうえ機内の

照明が落ちます。すなわち真昼間だけど基本は「寝ろ」ということですね。

日付変更線を西に横切ったので、すなわち今は日本時間20日の午前6時半（ここからは日本時間で記します）。いつものように1日損したような気分。基本は寝ているだけ。



9時10分に起きている乗客にハーゲンダッツとコーラが配られたのをいただき、また寝ます。

そして正午に「起きろ」と機内灯がついて、時間的には昼食ながら朝食っぽいホットサンド。

それを食べると着陸体制に入り、13時40分に

成田空港に着陸しました。ここからは入国手続を

終え、京成線で青砥まで移動してタクシーに乗り、16時には楽しい我が家に帰宅。

このあと医者に行ったり自宅生活を満喫したものの、今回に限っては明日の夜にはシンガポールに向けて発つので**トランジット30時間**という感覚でした（笑）。

ともあれこれでGPラスベガスはすべて終了です（GPシンガポール編につづく）。

# GP シンガポール編



Map by Google

2018年6月22日(金) ~ 24日(日)

Max Atria

## 2018年6月21日（木） 出国

今回のシンガポールでは荷物は極力少なめにし、機内持ち込みが可能なサイズのスーツケース（通称ネネさんバッグ）と、普段のリュックで10kgに収まる範囲の荷造りだけを行うようにしました。すなわちマジックではリミテッドを遊ぶケースと数日分の着替えを詰めるだけでおしまいです。これらの準備は水曜のうちに終わっていました。

なかなか治らない喉の状態を医者に見せた時に処方して貰った一週間分の「シロップ」は、空港での手荷物で問題にならないよう100mlずつの小分けもしたし、OK。

そして15時50分には家を出て最寄りの青砥駅行きのバス停へ。そして16時20分には青砥駅に着く。ここで京成線のホームを間違えて16時29分の特急成田空港行きに乗車し損ねるといふポカをやるも（笑）、まだ慌てるような時間じゃない。

16時51分に快速特急成田行きに乗車し、17時47分には空港第二ビル駅に到着します。18時12分にはスクートのカウンターで発券を終えて、その10分後にはセキュリティとイミグレを通過しました。すなわち今回の**日本滞在は30時間**でした（笑）。

## まずは台北へ

値段の関係などから今回のシンガポールへのチケットは、日本からの直行便でなく行きは台北を、帰りはバンコクを経由してのスクートの1回乗り継ぎ便です。まあ両方とも同じ便に給油だけして再度同じ席に乗る（1回降りる必要はあります）だけで乗り継ぎ時間も1時間しかなく大差ないので文句ありません。何より4日前に買ってたったの5万円。

18時半に83番ゲートに着くも、まだ2時間以上あるので誰もいませんでしたが、買ったおにぎりを食べながらグラブルなどして時間を潰し、20時過ぎには搭乗しました。今回は窓際ですし、どのみち機内は寝ているだけですね。離陸。

## 2018年6月22日（金） シンガポール到着

4時間ほどのフライトを終えて、日本時間零時30分、台湾桃園空港に着陸。1回降りてまた乗るだけなのですが、ここで案内に従ってチェックを行いながら「乗り換えカード」というのを受け取って、ぐるりと回って別の入り口から再度手荷物検査を行った後に搭乗することになります。

桃園空港にはトータル1時間しかいないものの、セキュリティを通過した後で機内飲み用の飲み物を買おうと思い台湾ドルを持参していたのですが自動販売機で紙幣が使えないので断念（泣）。イージーカードを持参していれば良かったのに、無念。

まあ機内は寝ているだけだし我慢すれば良いくらいの時間ですが。では再搭乗して同じ窓際の席に着席…しようと思ったら知らない

おっさんが自分の席に居ます。「ははあ」と思いつつ、そのおっさんと連れに本来の席を聞いてから、自分が通路側の席に座ります。トイレ行けるからこのほうがいいです。

機は1時半には出発して、日本時間午前6時にはシンガポールのチャンギ空港に到着しました。時差があるのでシンガポールはいまは午前5時です（ここからはシンガポール時間で記します）。



## 朝のチャンギ空港

何ごともなくシンガポールへの入国手続きを終えました。今日はGP金曜日を楽しむ予定であり他にどこかに行く予定もないので、あと何時間かは空港で暇を潰すしかありません。まずは朝食にしましょう。

前にチャンギ空港に来たのは昨年12月なのでまだ半年しかたっておりませんが、やはり

**キティに支配されていないと**だいぶ印象が違いますね。

昨年12月のチャンギ空港はサンリオのフェアをやっていて、あちこちにキティなどのディスプレイがされていたのです。このへんはGPシンガポール2017本を参照。

空港で38ドルのSIMを買ってスマホに装着し、何の問題もなく通信を確保できることを確認。もっとも空港の無料Wifiでも当面はそれほど困らなかったのですが。

それはそれとして朝食です。まあ定番のバーガーキングでいいじゃろうと案内に従ってターミナル1に移動するも発見できず。探したすえに空港のバーガーキングは1ヶ月前に**閉店していた**ことを知ります。がああああん。

仕方ないので手近の「Kaffe&Toast」という店に入り、トーストセット。  
…写真よりだいぶしょぼいな。4.6ドルならこんなもんかと思えなくもないが、注文を受けてから焼いている筈のバタートーストがホカホカでないっていったいどういうことかな？ カップ卵も半熟と



いうより二分熟な感じで生卵をすすっているような食感でコーヒーも甘ったるい。それでも完食するも、この店はハズレ。

まだ時間はあったので、口直しにKFCに入って朝食のセットを注文。

6時半、口直し終了。朝の薬を飲みます。

## 会場へ

時間つぶしをしているとそろそろ7時半。まだまだ早いものの、もう MRT は動いているので、会場に向けて移動することにしましょう。どうせスマホで暇を潰しているだけならどこでも一緒。

シャトルでターミナル3に移動し、MRTの空港駅へ。

前回覚えたように、シンガポールの MRT は同じ IC 切符を6回まで再利用するシステムで、最後の6回目を使うと10セントお得になります（GPシンガポール2017本を参照）。

12月に使った切符を今回は持参していたので、それに追加チャージをしようと思ったらエラーになりました。よく見たら「有効期限30日」と切符に書いてありました。

仕方ないのでそれを捨てて10セントを惜しみつつ再度新しい切符を購入。

MRT 空港線に乗り、8時には空港駅の隣のエキスポ駅に着きます。

セブンイレブンに寄ってから、駅から20分歩いて GP 会場の Max Atria に到着。

まだだいぶ時間があるようですが、準備中の会場は特に立ち入り禁止でもなかったので、入って適当な空席に座り、開始を待ちます。

Unlimited ドラフト予選まで、あと1時間半。

会場の無料 Wifi の品質はとてもよいです。

空港・会場・ホテルで大半の時間を過ごすのだから SIM 購入が不要と思えるほどに。



## Unlimited ドラフト予選シールド#1

10時過ぎにシートオールが出たので移動して着席。

参加者は108名の固定4回戦。どのみちまずは「決勝ドラフトに参加するためには基本

全勝が必要、それを目指すなら少なくとも3回戦までに  
 負けただけにドロップして次に参加したほうが良い。  
 もちろんIDなどできない」スパルタンな予選の開始。  
 いつものようにパックが配られチェックして開始。さて。  
 まずはレアチェックから。…安い。強くもない。  
 それでもレアを生かすべく、白緑タッチ赤で。

《ハルシオンの目撃者、エヴラ》
《スランの崩落》
《豊潤の声、シャライ》
《前知の場》
《新緑の魔力》
《内陸の湾港》

取りレア

Creatures: 15	Spells: 9	Lands: 16
《不屈の護衛》	《豊潤の声、シャライ》	《獣血蠟燭》
《ベナリアの儀仗兵》	《ベイロスの大喰らい》	《古えの憎しみ》
《エルフェイムのドルイド》	《セラの天使》	《ウルザの秘本》
《アヴナントの罟師》	《マンモスグモ》	《火による戦い》
《ペガサスの駿馬》 * 2	《艦の整備士、ティアナ》	《灰からの成長》
《炎矢師、ハラー》	《ハルシオンの目撃者、エヴラ》	《セラからの翼》
《騎兵呼集》	《新緑の魔力》	《野生の猛攻》
		《焦熱の介入》
		Sideboard:
		《空を射抜く》

構築デッキ

Round1 Yeoさん 白青赤 ○○

順調に回って勝ち。

Round2 Laiさん 白青緑 ×○×

G1 回られて負け。

G2 《ハルシオンの目撃者、エヴラ》で14/4で殴ってライフを回復して押し勝ち。

G3 《ヤヴィマヤの化身、ムルタニ》がでてきました。そんなの居たのか。知ってても  
 追放系がなく対処できなかったけど、そこからのプレイミスもあって負け。

1敗したら決勝のトップ8ドラフトの目はもうないので、ただちにドロップしたうえで、  
 次にエントリーします。1回戦に勝てたので#2ではなく#3に参加できました。次いこ次。  
 時間は13時半。まだ1時間あったので施設内のバーガーキングで昼食にして待ちました。

## Unlimited ドラフト予選シールド#3

参加者は90人でした。

まずはレアチェック。ボムの装備品2つはいいが、トリプルシンボルのクリーチャー3つには苦笑。

《航海士のコンパス》の2枚で強引に合わせていく方向で、剣の絡みもあってレジェンド多めの白緑タッチ赤黒42枚。やや重めだし、ちょっと苦しいかな。

《ベナリアの軍司令》
《祖神の使徒、テシャール》（フォイル）
《ゴブリンの鎖回し》
《鉄葉のチャンピオン》
《再鍛の黒き剣》
《多勢の兜》
《内陸の湾港》

取りレア

Creatures: 15	Spells: 11	Lands: 16
《ラノワールのエルフ》	《シヴの火》	《平地》*8
《ベナリアの儀仗兵》	《獣血蠟燭》	《沼》
《シッセイの後裔、シャナ》	《航海士のコンパス》*2	《山》
《ベナリアの軍司令》	《ギデオンの叱責》	《森》*6
《アヴナントの賢師》*2	《再鍛の黒き剣》	
《鉄葉のチャンピオン》	《神聖の発動》	Sideboard:
《密航者、スライムフット》	《セラからの翼》	《腐食軟泥》
《エイヴンの歩哨》*2	《多勢の兜》	《魔術師の稲妻》
《フェメレフの誇り、クエンデ》	《祝福の光》	
《祖神の使徒、テシャール》	《焦熱の介入》	
《ベイロスの大喰らい》		
《始源のワーム》		
《茨の精霊》		

Round1 Chuさん 白青 ○×○

構築デッキ

G1 ブンして勝ち。

G2 押されて負け。

G3 回って勝ち。サイド交換した《魔術師の稲妻》も仕事をしてくれました。

Round2 Zhangさん 青黒緑 ××

除去られ押されて何もできずに負け。

相手も《再鍛の黒き剣》を出したので重い2枚を《腐食軟泥》に交換するも、それ以前の回らない展開で終了。

これで今回もトップ8の目はなくなったものの、もうUltimitedドラフト予選の本日分はエントリー終了です。

ではドロップして普通のドラフトに行くか、とも思ったもののこの時点で17時を回り、その時点ではドラフトのポッド2を受け付け中で自分が**その1人目**であると判明したため「こりゃ18時までには立たないな」と判断して、ドラフトに行くのを中止しドロップ取り消しを行って引き続き残りのラウンドに参加することにしました。

一応まだ賞品パックの目はあるので。

ただし日曜日のドラフトの立ち具合からは、あるいは普通にすぐ立ったかもしれません。

### Round3 Chuaさん 黒緑 ○○

G1 相手が遅刻したので不戦勝。ま、競技ですから。

G2 ライフ3まで追い込まれるもこちらの《密航者、スライムフット》に《多勢の兜》がついてそれからは酷いことになって勝ち。

### Round4 Limさん ID

ここまで2-1なので6点。そして今回の賞品設定は「9点で100チケ、7-8点で50チケ、6点以下はゼロ」なので、勝てば100チケで負ければゼロ。そして引き分けで50チケ。このため「IDします？」と誘ったら時間的にも向こうもそう考えていたようで、即座に同意されて双方で50チケを獲得して終了することになります。

ともあれ、これでGP金曜日はすべて終了しました。

残念ながらというか当然ながら、2回の予選で優勝してUnlimitedドラフトの権利を手に入れることなどできませんでしたが、一応自分は**そのためにシンガポールに来た**ので、明日も引き続き本戦を横目にそのように参加することになるでしょう。

ともあれ19時には会場を出ました。夕食はどこで何を食べようかなあ。

## フードフェアで夕食

GP シンガポールは Expo 施設の一番奥の「Max Atria」でやっているわけですが、駅から会場まで 20 分歩いて来るときには他の展示会を数個横目に見ながら進みます。

そして途中の展示会では「フードフェア」をやっていることを把握していたので、ひとつコレを覗いてみるのはアリだな…ということで駅までの帰りに立ち寄りました。

フードフェアの会場では、ブース多数で単なる食材や調理器具あるいは包装した菓子料理なども展示即売しているものの、当然ながら屋台風のブースも多数並んでおり、その場で買って食べることも可能。

このため目移りしながら店を眺め、その一軒でラクサを注文。3.5 ドル。  
うんうん、普通においしいですね。



ラクサをおいしく完食し、別の屋台でデザートにマンゴーかき氷を購入。フワフワ氷ではありませんが、普通においしくいただきました。満足。

このフードフェアは GP 期間と同じく日曜までやっており、さらに 21 時頃までは普通にやっています。もう夕食は何も考えずに、毎晩ここで構わないのではないかと思いました。

## ホテルにチェックイン

夕食を済ませて 19 時半には駅へ。今回の安宿の最寄り駅のパヤ・レバー (Paya Lebar) までエキスポ駅から 1.9 ドル。空港線をタナ・メラ (Tanah Merah) 駅で乗り換えて東西線で 4 駅。20 時前には着きました。この一帯のゲイラン地区は、シンガポールでも宿泊費が安く風俗が充実 GP シンガポールの会場から近いのがいいのです。

パヤ・レバー駅からゲイラン通りに出て  
グーグル先生に従って「フォーチェン  
ビューホテル」を探すと、ほどなく発見。  
チェックインも終えて、カードキーを貰う。

「部屋は 3 階だが目の前のエレベーターで  
3 階まで行くのではなく 2 階で降りてその  
奥にある階段で 3 階へ」という**無計画な  
建て増し**のスメルの案内に従い部屋へ。

…うんまあ、こんなもんだらう。窓はないけど清潔感はある。

部屋の Wifi の質はいいしエアコンの効きはいいしシャワーもお湯が出る。冷蔵庫がないのは想定内。値段を考えれば十分。窓はないけど少なくとも 12 月の宿よりはだいぶマシ。



## ホテル周囲を散策

部屋のチェックを終えて外へ。もう夕食は済ませたもののコンビニかスーパーでポテチや冷たいものは買わねばなりません。

とはいうもののゲイラン通りは昨年12月に**無駄に歩きすぎた**感があり（GPシンガポール2017本参照）、半年後に改めて歩いてもあまり面白いものでもありません。

1時間くらいぶらぶら歩き、コンビニでポテチアイスと飲み物を買って22時には今夜の探索は終了として、ホテルに戻ります。



通りをはさんだ向かいから撮影したこのホテル

## 金曜日終了

部屋に帰ってシャワーを浴びて、エアコンの効いた部屋でそのままベッドでごろりと横になると、果たしてただちに**意識を失なって**数時間の爆睡。再度気がついたのは午前の2時過ぎでした。あちゃー…ま、いいけど。

起きてから記憶が鮮明なうちに今日の対戦ぶんのマジック日記をまとめ、DiaryNoteにアップロードすると午前3時半。ま、朝までもう少し寝ておきましょう。

ところでそもそも明日は会場には何時に行けばいいのかな、と思い明日の予定を確認。GP本戦（スタン）にはエントリーしていない自分は早く行く必要はないのは明らかではあるわけであり、自分はまずはUnlimitedドラフト予選シールドの#5からの参加予定。そしてその受付終了時刻は**正午**。

…もしかして（もしかしなくても）、明日は昼まで会場に行く必要はないのかな？ まあ急ぐ必要はなさそうではあるけれど、もしかしたら本戦と平行でドラフトも立つかもしれないから、目が覚め次第、会場に行くことにしましょう。  
午前4時就寝。

## 2018年6月23日（土） 予選シールドの日

8時に目覚ましをかけてから寝たものの、どうやら目覚ましを自分で停め**二度寝**をしてしまったらしく、目が覚めたのは10時。うわっ！

本戦に参加していたら**によわー**していた所だが、一瞬青くなりかけてから今日は正午に会場入りでいいんだっけと思い直し、ある意味ちょうどいいやと思って起床。

とはいえ、やはり朝の光の入らない窓のない部屋は、こういう問題があるね。

そそくさと服を着る。今夜はカジノに行くつもりでもあるので暑いけど長ズボンをはく。

ホテルを出て目の前のレストラン  
ブロックで朝食の洋軽食を頼む。  
コーヒーとバタートーストに卵。  
卵の端を割ってみると、やはりの  
二分熟。こういうの好きなのかな



シンガポールの方々は。  
卵を半分割りスプーンですくうの  
かなと思ったものの、面倒なので

トーストのう上に直接卵を全部かけて、そのままぱくつく。トーストがホカホカなので、昨日の空港飯よりはだいぶ良い。お値段も2.5ドルと空港よりは安い。

とはいえ少しもの足りないから、行きがけにフードフェアに寄って何か食べようかなあ。

## 会場入り

朝食を終えると10時半。パヤ・レバー駅でMRTに乗ってタナ・メラーで空港線に乗り換えてエキスポ駅へ。セブンイレブンで昼食（ほとんど朝食と時間が離れていないが）の

チーズ玉子サンド（2.9ドル）を買ってから会場へ移動。11時に会場入り。  
ただちにサイドイベント受付に行き、55ドル払ってUnlimitedドラフト予選シールドに  
エントリーする。定員オーバーでもなくまだ普通に可能。あとは1時間待つだけ。

セブンイレブンで1ドルと安かったので買って来た今回の珍  
ドリンク。強い**薔薇の香り**のついた甘いミルク味の飲料。  
最初口にしたときには「うげっ」とすら思ったものの、甘い  
ミルク味というのが痛んだ喉には快く、匂いは慣れると段々  
気にならなくなり、最後の方ではおいしくすら感じました。  
今回は手荷物のみなのでペットボトル飲料を飛行機では持ち  
帰れないので断念しましたが、そうでなければ日本に土産と  
して何本か買っていったかもしれません。

なお幸いにしてラスベガスではあれほど自分を悩ませた酷い  
喉の痛みは、この頃にはほとんど気にならなくなりました。  
毎食飲んでいる処方されたシロップも効いているようです。



## 混み具合



自分には関係がないものの11時半頃に  
本戦3回戦が開始。会場中央のバイヤー  
ブースで仕切られてちょうど半分を使用  
している感じです。

残り半分はサイドイベント等で使用して  
いるため、そこそこ満員感のある会場。  
この関係もあり今回感じたのは「部屋が

寒すぎない」ということでした。荷物を減らすために長袖のシャツは持ってこなかったのですが、半袖でぜんぜん悩まない涼しさ。とって汗ばむということもなく快適。まあ、寒くなるほどの冷房ではないなんて**アジア GP**にあるまじきとも（笑）。

例によって、ほぼ使っていないもう1部屋を取っているようなので椅子不足でもなく。

QJがいたので本戦の人数などについて問い合わせの雑談。まあ、シンガポールのGPなら当然ながらQJとロコは居るよね。あいつら日本はもちろんラスベガスでも見かけるし。そういえば昨日からいとりなは頻繁に見かけるけど他の日本人ジャッジ2人を見ないな…瀬野さんも居るはずなんだけど（デッキチェックチームなんだろうか）。

Rob先生のブースでシリアル入りの50点限定GPシンガポールのプレイマットを40ドルで自分土産として買ったりするうちに、そろそろ正午。いよいよぼくの戦いが始まる。



## Unlimited ドラフト予選シールド#5

参加者は**たったの48人**。僕はこのUnlimitedドラフトというのは誰もがやりたがるもので予選シールドの128人枠なんて毎回瞬殺だろうとも思っていたので、いかに参加総人数自体が多くもないGPシンガポールの本戦の裏とはいえ、かなり意外。

一瞬「これは決勝ドラフトに行く可能性が上がったかな！」とぬか喜びするも、実際には参加人数が48人であろうと127人であろうと、4回戦のうちの最初の3回は勝たないと決勝に出られないというスパルタンな仕様には何も変わりがないのですが（笑）。

パックチェック。まずはレアチェックから。  
うーん…赤のコモンとアンコモンがお通夜だったので、  
《多勢の兜》を生かすべく黒緑タッチ白で。

《ベルゼンロック典礼》  
《ヤヤ・バラード》  
《包囲攻撃の司令官》  
《ドミナリアの大修復》  
《縄張り持ちのアロサウルス》  
《多勢の兜》

### Round1 Chenさん 黒緑 ××

- G1 回らず次第に押されて負け。  
G2 回らず。向こうの決め技は《リッチの騎士、ジョス・ヴェス》のキッカーつき。

取りレア

そこまで酷いデッキにも見えなかったけど、ともあれ決勝の目はなくなったのでただちにドロップして次にエントリー。まだ14時でもある。  
次のシールドまでの合間に買っておいたサンドイッチをかじる。

## Unlimited ドラフト予選シールド#6

参加者は70人。まずはレアチェック。  
…もうちょっと何とかならんのですかと思える、安くてジン以外は強くもないレア軍団。  
ジンをフィニッシャーに位置づけた白青タッチ赤で。

《ランプのジン、ザヒード》  
《戦慄の影》  
《センギアの純血、カザロフ》  
《ベルゼンロック典礼》  
《テフェリーの誓い》  
《断崖の避難所》

### Round1 Chenさん 黒緑 ××

- G1 《豊潤の声、シャライ》が出てきて、除去しても墓地から戻ってきて。  
G2 残り2点まで削るも、そこで息切れ。自分の最後の手札は土地のみに。

取りレア

まだ16時。まだまだ次の予選シールドに間に合うようだったので、ドロップ。

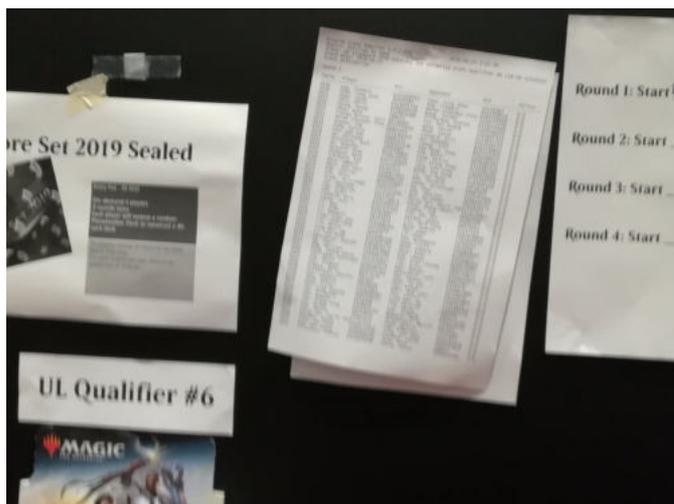
## 会場の外へ

ところで初めて見るこのペアリングの貼り方はいかなものなのかな。

2枚目に載ってるプレイヤーのひとはいちいち「ぴらっ」とめくらなくてはなりません。まあたいした総人数ではないというのが根本にあります。

しかし隣に貼られている**別のサイドイベントの宣伝**なんて移動させて

ちゃんと2枚貼ればいいのにとは思いました。



今夜のカジノの軍資金のために会場を出てATMでおろしたのですが、途中のホールでの廊下は何やら着飾った微妙なお歳のご婦人たちで溢れています。どうも隣のホールでファッション関係のイベントをやっていた感じでした。

とはいえ床にべったり座り込んでお化粧をするのはさすがにどうかと思わなくもなかったです。

## Unlimited ドラフト予選シールド#7

参加者は78人。もう本日は「次」はありませんので、1敗してもドロップせずに賞品パック期待で続けるべきでしょうね。その場合には2敗でドロップになります。

ともあれ、まずはレアチェック。

**カーン様**キターッ！ ようやく運が上向いてきたの  
かもしれません。

除去なども考慮しつつ白黒で。

それほど悪いデッキとも思わなかったのですが…。

《ウルザの後継、カーン》
《戦慄の影》
《鉄葉のチャンピオン》
《総將軍ラーダ》
《永遠の大魔道師、ジョダー》
《クルーグの災い魔、トラクソス》

#### 取りレア

#### Round1 Chengさん 青赤 ××

G1 先手の土地1枚でマリガン→土地0枚でマリガン。先手ダブマリの時点でほぼ負け  
なのですが、やはり一方的に押されて負け。

G2 魔術師ドブンで負け。もともと青赤ウイザードはハッハーすると4マナで終わる  
この環境最強とも言われるアーキタイプなのですが、その通りに負け。

これで決勝の目はまた早くもなくなりましたが、賞品パック目当てに続けます。

#### Round2 スズキさん 黒赤緑 ×○×

しばしば大会でも会う、顔見知りの方でした。

G1 押し合いで負け。

G2 向こうの事故っぽく、一方的に殴り勝ち。

G3 殴り合いで双方ライフ3ずつになる接戦でしたが、負け。

これで早くも賞品パックの目もなくなったのでドロップ。

19時を回ったので、もちろんドラフトもできず、もう帰るしかありません。

帰りがけに忘れずに、明日の朝の最後のUnlimited予選ドラフト#8にエントリーして、  
会場を離脱します。

## フードフェアで夕食

会場を離脱して駅のほうへ。途中、フードフェアの横を通ったので普通に「今夜の夕食もここで良いのではないか」ということで立ち寄る。今夜は何にしようかな。

タイ料理を出す屋台があったので、バジルポーク7ドルを注文。

作りたてをぱくつく。

ンマーイ！ 容赦のない辛ウマ。

ヒーハーいいながら食べる。満足。

明日の夕食もこのフードフェアで

いいやというか別にこの店でもいいや（笑）。



## カジノへ

それでは予定通りに今夜はシンガポールのカジノに行きましょう。

20時前にMRTに乗ってパヤ・レイバーまで行ってから今夜はそこでは降りずに、環状線に乗り換えてベイフロント駅まで。駅を出て案内に従い、21時前にはカジノに到着。ここか。

リュックを預けたりパスポートを見せたりしたのち、入場。長ズボンを履いてきたので追い出される様なこともないようです。



## カジノで大勝ち

入ってすぐのロットゾーンを素通りして、テーブルを探します。さらにどうやらシンガポールのカジノではドリンクベンダーで飲み物が**無料で飲み放題**であるようなので、ジュースを何杯か取ってガブガブ飲みます。ふう。会場内を給仕が運んでいる奴も自由に取って飲んで構わないようでした。

この辺は国によって違う感じで、無料のドリンクはまったくない所、プレイヤー登録すると何枚か無料券をくれる所、無料で頼めるけど普通給仕にチップを渡す所（これはラスベガス）など色々ですが、完全無制限無料は初めてでした。気前いいですね。

そしてブラックジャックのテーブルのあるゾーン。何度か往復してミニマムが25ドルであることをしげしげ確認します。シンガポールドルなので約2000円。体感的にはこれはラスベガスの5ドル台の**約3倍**。1回の勝負で平均3千円が動くのは貧乏人の自分にはやや躊躇される金額です。実際、過去にはここで躊躇して結局はロットのセント台だけ小一時間回しトータル2千円くらい失ってカジノの空気だけ吸って帰るというパターンも何度もあったものでした。

しかし今夜の自分は勇気を出してその先へ。

当たり前ですが賭け金では勝敗の確率は変わりませんから、結局のところこれは失っても構わない種銭を3倍用意すればいいだけの話であり、勝てば勝ちも3倍になります。

このため今夜は震えながら200ドルを用意してのスタート。

100ドルチップ1枚と25ドルチップ4枚を受け取ります。たった8連敗で失う金額。

しかしながら今夜の自分は非常にツイていたようで、たまに負けながらも基本は連勝。自分はまずチップ1枚でスタートし、勝てばチップ2枚にして打ち続けて負ければ1枚に戻してまた打つという打ち方をしているのですが、この結果ざくざく50ドル分チップが増えていきます。勝ちが150ドルを越えたあたりから内心**をををををを**と思いつつ、勝ち逃げを決めるため、そこからは勝ちが150ドルを越えたらそのうち100ドル分を「勝ち確」としてロックして残りの50ドルを「これが無くなったら帰ろう」としたうえ

打ち続け、さらにそれが150ドルに達したならまたそのうちの100ドルをロック…を繰り返したら、何とその調子で**550ドル**まで行きました。そして500ドルをロックした状態で打ち、それを失ったので席を立てて終了としました。



すなわち500ドルで終了、トータルでは

**300ドルの勝ち**でした（2万4千円くらい）。いやったあ！

もちろんここまで勝ったのは生まれて初めてでした。高額レートのカジノって面白いな、でもやっぱり怖いな…とは思いました（小心者）。

ちなみに僕はやらなかったのですが、シンガポールのカジノは「赤の他人のテーブルに賭ける」ということができるシステムなのが面白いと思いました。

勝手に誰かの横にチップを置き（そういうゾーンがある）それはその人が負けたら失うものの勝ったら同額が返ってくるというもの。もちろんその人の判断には口を出すことなどできず文句も言えない自己責任でやるのですが、ミニマムに足りない10ドル等で賭けられるのがポイント。あと、やっぱり非常にこれは勝てると盛り上がりますね。

僕は基本的には座るなりだいたい勝ち続けたので、割とギャラリーが僕に便乗して、知らないオッサンにもトータル100ドルくらいは儲けさせた感じです（笑）。

## 土曜日終了

22時過ぎには気持ちよくカジノを出てMRTに乗ってパヤ・レバーで降り、23時過ぎにコンビニによってからホテルに戻ります。

シャワーを浴びてDiaryNoteにマジック日記を書いて、1時半就寝。

## 2018年6月24日（日） 予選シールドとドラフト

7時起床。よし。

7時半には宿を出る。昨日朝食を食べたゾーンは閉まっていた。日曜だからかな。朝食は会場近くで何とかすることにして、まずはパヤ・レバー駅まで移動。

ゲイラン通りは汚い安宿が並ぶだけの通りなのですが、ゲイラン北端のパヤ・レバー駅では工事をやっており、たぶん次に来た時には大規模ショッピングモールになっているんだろうなと思える光景。

8時にはエキスポ駅に着きますが、しまった、セブンイレブンにはサンドイッチが置いてないしエキスポ施設内のバーガーキングは閉まっています。フードフェアは11時から。



### 朝食のカフェ



8時40分には会場へと行ったものの、本戦2日目が20分後に開始されるとは思えない閑散振り（笑）。

まだUnlimited予選まで1時間あるのでいったん会場を出て、近くのカフェへ。朝リュックの中に放り込んできたポテチだけでは昼まで持ちそうにない。サンドイッチのセットにエスプレッソ。うん、こんなものかな。12ドル。

サンドイッチは普通においしいですね。もぐもぐ。  
ではコーヒーを、と思ってふたを開けたらその量に  
驚く。思わず店員に「少ない？」と言ったら  
「エスプレッソならこうだ」と言われる。  
実はこれまでエスプレッソというのを飲んだことが  
なかったのですが、そういうものなのか…。一応、  
ネットで調べて納得。コーヒーの味をぎゅっと濃縮  
している淹れ方のような感じです。



なおこれはリアルタイムでつぶやいていたので、割と「エスプレッソならそういうもの  
ですよ」といった**総ツツコミ**を受けました。ただし普通は小さい小さい専用カップに  
入れて出されるもので普通の紙カップに入れるのは割と**珍しい**とも。

ともあれ飲むと、鋭く濃い苦味。なるほど、これはこれで。

## Unlimited ドラフト予選シールド#8

朝食を終えて会場に戻ると9時過ぎ、普通に本戦2日目は始まっていました。そして9時  
半にはいよいよUnlited ドラフト予選シールド#8の座席表が張り出されました。  
さすがに本戦不通過組が前日受付で参加した最終日の最終回だけに、満員御礼128名。

では開始しましょう。まずはレアチェックから。

最後もあかん子でした。何度も見た**カスレアソート**が  
直撃したもうやだこれな感じ。

《ベルゼンロック典礼》  
《センギアの純血、カザロフ》  
《でたらめな砲撃》  
《カマルのドルイド的誓約》  
《断崖の避難所》  
《森林の墓地》

取りレア

一応レアを生かすべく黒緑タッチ青で。レアはともかく《密航者、スライムフット》と《孢子冠サリッド》という孢子コースとそれと噛み合う勝ち筋の《フレイアリーズの歌》もあって黒除去もそこそこある、それほど悪くないデッキだとも思ったのですが…。

### Round1 Chuaさん 白黒赤 ××

G1 《フレイアリーズの歌》からつなぎマナ加速して4ターン目に《始源のワーム》を着地させるも、殴る前に秒で《喪心》され、特に後続が続かず負け。

G2 土地を7枚引くも緑マナの出る土地を引かずに負け。緑マナの出る土地も7枚入れたんだけどなあ…。まあ、駄目な時は何をやっても駄目。

早くもUnlimitedドラフトの目は消えましたが、あとは賞品期待で続けることにします。

### Round2 Stevenさん 白青黒 ××

…あかん。

これで賞品パックの目もなくなったのでドロップ。12時半。ドラフトいこドラフト。

## ドミナリアドラフト ポッド4

《縄張り持ちのアロサウルス》

22ドル払ってエントリーし、ほどなく立ちました。

取りレア

アーキタイプはまたしても黒緑の孢子だが、上と2色かぶりの大失敗。

### Round1 白青黒 ××

G1 土地が3枚で止まって相手が早々に《ベナリア史》を置いて負け。

G2 土地が2枚で止まって（略）…次いこ、次。

## ドミナリアドラフト ポッド6

22ドル払ってエントリーし、ほどなく立ちました。  
青のナバンでスタートするも全然青やウィザードが流れて来ないので黒緑タッチ青にチェンジしようとしたら露骨に裏目に出てぐちゃドラになり3-1でジンまで引く。  
まだ脇目も振らず青赤ウィザードで突っ走ったほうがマシだったかも。

《反復の学部長、ナバン》  
《ランプのジン、ザヒード》  
《ヨーグモスの不義提案》  
《不死身、スクイー》  
《養育者、マーウィン》

取りレア

### Round1 白青 ××

G1 こちらマナフラで生物が少ない所に**テフェリー先生**こんにちは。  
G2 いいとこなし負け。…次いこ、次

## ドミナリアドラフト ポッド9

22ドル払ってエントリーし、ほどなく立ちました。  
どうでもいいレアを流して1-1で《逃亡者、梅澤哲子》をピックして、僕の好きな白青の軽い英雄で組めたものの駄目なときは何をやっても駄目。加えて**取りレアなし**。

### Round1 青赤 ××

G1 土地が2枚で止まって負け。  
G2 ドブンされて負け。

ほんとうに**つらい展開**になってきました。1ゲームすら勝てません。

## フードフェアで昼食

ドラフトポッド9を終えると15時半。そんなに焦ってエントリーしなくてもドラフトは割とすぐ立つ感じですし、何より腹も減ってきたので会場を出てフードフェアへ移動します。

昨日のタイ料理の屋台でガパオライス7ドル。ただただ、辛ウマの満足。食べるなり会場に戻りました。



## ドミナリアドラフト ポッド14

16時過ぎには会場に戻って、22ドル払ってエントリー。16時半には8人エントリーされたものの、そこからが割とぼろぼろ。会場マイクを使えないということだったのだとは思うがろくに呼び出さず、8人の名前が書かれた紙を持つジャッジと15分くらい空しく待ちます。その後、揃って開始。

《ヤヤの焼身猛火》  
《刃の翼ヴェリックス》  
《養育者、マーウィン》  
《再鍛の黒き剣》

取りレア

1-1で《再鍛の黒き剣》をピックして、それをフィニッシャーとする赤緑のランプと伝説というラスベガス日曜に全勝できた(P.42)アーキタイプ再び…と思いつつ構築。しかし

Round1 白青黒 ××

駄目なときは何をやっても駄目

## ドミナリアドラフト ポッド 19

17時40分、22ドル払ってエントリーします。今日は22ドル払ってプロモ基本土地と少々の安レアとPWP9点を貰うだけの繰り返しでしたが、勝っても負けても本日はもうこれで終了であり、GPシンガポールも終了ということになります。

1-1 《永遠の大魔道士、ジョダー》を流し《艦の魔道士、ラフ・キャパシェン》を拾う。

1-2 《ポーラスの手中》が流れてきたので、青は確定。  
白青か青赤か。もしもジョダーが戻ってきたら拾っての青赤白にしようとは思いました（戻ってきませんでした）。

1-5 《ゴブリンの鎖回し》が来たので拾い、白を捨て赤青で確定。

3-1 《ランプのジン、ザヒード》は文句なく秒で取りました。

《ランプのジン、ザヒード》
《ゴブリンの鎖回し》
《カマルのドルイド的誓約》
《断崖の避難所》

取りレア

### Creatures: 15

《工匠の助手》  
《秘宝を追う者》\*2  
《逃亡者、梅澤哲子》  
《トレイリアの学者》\*2  
《ギトウの修士魔道士》  
《ゴブリンの鎖回し》  
《ケルドの軍監》  
《エイサーの滑空機》  
《ケルドの略奪者》  
《悠久の壁》  
《雲読みスフィンクス》  
《冷水カミツキガメ》  
《ランプのジン、ザヒード》

### Spells: 9

《シヴの火》  
《獣血蠟燭》  
《航海士のコンパス》  
《小剣》  
《一瞬》  
《ウルザの秘本》  
《魔術師の稲妻》  
《ポーラスの手中》  
《中略》

### Lands: 16

《島》\*7  
《山》\*9

### Sideboard:

《悠久の壁》  
※地上防御に寄せる場合には  
《トレイリアの学者》と交換

構築デッキ

Round1 Norbieさん 黒赤緑 ×○○

「自分のサイドボードが土地を取りに行っている間に消えた」というトラブルが発生していたことをジャッジに訴えていた方。うーん…。自分にはどうにもできません。

- G1 こちらにクリーチャーが並ばず向こうが場を固めたので投了。
- G2 回って一方的に勝ち。《ランプのジン、ザヒード》も出た。
- G3 4ターン目に《ランプのジン、ザヒード》が出て勝ち。「サイドがあれば…」とも言っていたので《空を射抜く》くらいは入っていたのですね。
- ともあれ、久々に人間相手に勝てました。

## Round2 Harzさん 緑 ×○○

- G1 相手に《ウルザの後継、カーン》がこんにちは。普通に負けました。
- G2 相手が《ウルザの後継、カーン》を出し何度かアドを取られたものの《ポーラスの手中》で奪取して自分がアドを取り返し、何とか盤面をひっくり返して勝ち。
- G3 相手が《ウルザの後継、カーン》を出したのを《ポーラスの手中》で奪取。そのカーンは除去されたものの、それまでに取ったアドで勝ち。

## Round3 Zhiさん 合意による勝ち

もう20時を回り、帰りたかったのでスプリットを提案して了承され、双方100チケットずつ取ります。あとは形式的に「勝ち」を決める必要があったので、ここで「勝ち」と「副賞のプロモ基本土地5枚セット」のどちらを取るかで自分が勝ちを取りました。

この「プロモ基本土地」はドラフトに1回出るだけでランダムに1枚貰えるので正直なところそれほど価値を認めていなかったのが相手に譲ったという側面もあるのですが、2018年7月現在は「**1枚1000円**」くらいの値段はついていますね。どう見てもこれは高すぎるのでいずれ落ち着くとは思うものの、とりあえずしくじったかも（笑）。

この100チケットをプライズウォールで「本戦プレイマット」とパック少々に変換して受け取って20時半過ぎ、会場を出ます。これでGPシンガポールも終了と言えます。

## チャイナタウンでうなぎ料理

まだフードフェアは開催しているものの、昼に食べたのでさすがにパスすることに。では夕食はどうしたものかと考えて、ひとつ観光ガイドなどでも名前を見るもまだ行ったことのないチャイナタウンに行ってみることにしました。チャイナタウンは割と夜遅くまでやっているようでもあり、夕食くらいは食えるでしょう。そこで MRT のエキスポ駅からダウンタウン線に乗り、21 時半にはチャイナタウンに到着。しかしながら特に**目的もなく**来てしまったのは大失敗としか言えない展開に。MRT の駅ビルから行きたい所もないのであてもなく外に出ることもなく（というか外に出ても、単に真っ暗な道路があるだけの模様）、結局は**駅ビル内の飯屋**に入っただけでした。どう見てもわざわざ MRT で 30 分もかけて移動する価値もなく「チャイナタウンを観光しました」とは言いがたい状況です。大失敗。

もっともその「飯屋」というのは、日本料理レストランであり、昨日のカジノでの大勝ちしたシンガポールドルも余っているので、ひとつ奮発することにして「うなぎと天麩羅のセット」を注文したのです。税込み 35 ドルほど。



お値段もそこそこ張るだけに、前回

GP シンガポール会場そばの日本食レストランの**まずいうなぎ料理**（GP シンガポール 2017 本参照）よりは相当にマシで、普通においしいうなぎ丼でした。値段も張るけど。まあ本当はうなぎを食べただけなので「天麩羅いらないからうなぎ丼だけ 25 ドルで出してくれないかなあ」とか思ったものの、そういうメニューはありませんでした。まあこの辺ははっきり「うなぎを食べたい」客の足元を見ているのだとは思いますが。とはいえ値段に見合う満足は得られました。これだけのためわざわざチャイナタウンまで来るほどかと言えば別に他のところでも食べられるでしょうけど（笑）。

## 24時間開いているコンプレックス

日本食レストランを出て22時（そろそろここも閉店）。つままないけどもうこのまま帰るしかないのかなー、と思いつつ調べるとこの近くに「24時間開いているコンプレックス」があることを知りました。ふむ…行ってみるか。

ということで駅ビルを通過して隣にあるそのコンプレックスに行ってみたのですが…確かにそのコンプレックスはこんな時間で開いていたけど、中のテナントは**全部閉店してる**じゃねーか。来た意味なし。てゆーかトイレ付近は打ちっぱ

なしのコンクリートの壁も見えるしこれほとんど**廃墟感**。さらに言えば自分がトイレに入って用（小用）を足しているとき、他の地元民らしい数名がどやどやと大声でトイレに入ってきたときは少しだけ**恐怖**も感じる展開。まあ彼らは酔って笑っていただけなので別に何の危険もなくそのまま用を足してすれ違っただけなのですが。いずれにしてももうチャイナタウンに居ても仕方なさそうでした。MRT 駅に向かいます。



## 日曜終了

MRTで23時前にはパヤ・レバー駅にと戻りました。あとはコンビニで飲み物とアイスとポテチを買ってホテルに戻ります。シャワーを浴び（なぜかお湯の出が悪かったですが）、さっぱりしました。

マジック日記は明日でもいいやということで、零時前には就寝。

## 2018年6月25日（月） セントーサ観光と出国

夜中に2回ほど目が覚めて水分補給をしましたが、目覚ましをかけずとも7時起床。よし。部屋には窓もないのでPCを起動して本日の天気予報。さっき夜中に目が覚めた時のあの音はたぶん雷だよな…と思って天気予報を見ると本日の予報は**雷雨**。今日はフライトは夜なので昼は一日観光の予定しか入れてなかったけど、どうしよう…。



とりあえず朝食に出ることに。宿から出ると、小雨は降っているものの別に雷雨や土砂降りでもないの、これなら予定を曲げておこりの必要もなさそうですね。良かった。

宿のそばの食堂ゾーンは普通に空いていたので土曜にトーストを食べた洋食屋台とは別にあるローカルフードの屋台にチャレンジ。

ナシ・レマクのセットを注文したもののだいぶ写真メニュー詐欺というスメルを感じる案件。**彩度が足りない。**



まあまあ味は普通に食べられたし、基本3ドルなら別に文句はないのですが。あと鶏の唐揚げを期待していたのですが実際には魚のフライでした。いいけど。完食して部屋に戻りました。



## マジック日記とチェックアウト

8時過ぎに部屋に戻り、まず昨日のマジック日記をまとめます。あんまりの負けっぷりに気落ちしつつまとめてアップロード。

だらだらツイッターをしながら進めていたら10時近くまでかかりました。

では荷物をまとめてチェックアウトすることにしましょう。

荷物を引いて10時半にホテルを出ると、もう「雨はあがっている」と言っている状態。

じゃあ予定通り昼はまるまるセントーサ観光でいいですね。帰りのフライトは22時発なので、19時頃までは観光で遊んでいてもぜんぜん問題なさそうです。

なお結局ここまで荷物はほとんど増えていなかったのだから、バッグはそのまま引いて歩いていても構わない軽さです。まあ結果論としては飛行機の増量不要っぽかったのですが。

## セントーサ島へ

MRT東西線を西へ。やや混んでいたけど、電車の中で**席を譲られる**おじいちゃんになってしまった…まあ素直にお礼を言って座ります。

車内アナウンスは強いシンガポール訛り英語。スーシーホー駅ってどこだろうと思ったらCity Hall駅のことでした（笑）。

アウトラムパーク（Outram Park）で降りて乗り換え1駅でハーバーフロント（HarbourFront）駅へ。

MRT駅からエスカレーターを上って、エクスプレスのセントーサ駅に。

エクスプレスのチケットは4ドルです。

購入して11時半、乗車。



## 巨大マーライオン

ほどなくエクスプレスはセントーサ島内へ。このエクスプレスは、島内にあるウォーターフロント、インビア、ビーチの3つの駅に乗り降りし放題。自分はまずはシロソ砦に行くつもりなので、とりあえずインビア駅で降ります。

巨大マーライオンがぼくらをお出迎え。なるほど、これは割と壮観。なるほどマーライオンが**世界三大がっかり**の名を欲しいままにし続け、実際に本島のマーライオンはやはりしょぼい代物だなと思わざるを得なかったものの（GP シンガポール2017本参照）、シンガポールの方々がアレを何とかしようと思わなかったのは「何のことですかマーライオンと言えはこれです観光客の方はセントーサに遊びに来ますよね？」とでも思っているからなのかなと思いました（笑）。



## 無料バスでシロソ・ポイントへ

セントーサ島は小さい島なので北部のシロソ砦は1kmくらいですが、もちろん歩く必要などはありません。インビアからシロソ・ポイントまではケーブルカーで2駅なので、それに優雅に乗っていくのもありかとも思えたものの、島内に無料巡回バスがあることに気がついたので、じゃあそっちにチャレンジだ時間もあるのだし、ということで近くのバス停を探す。あった。



実はバスが3路線あったり、このバスは最初にすぐ近くのターミナルに移動しそこで乗り換えたものの実は最初からそのターミナルに徒歩移動したほうが近かったとか（笑）色々細かい話はあるものの、それはそれとして無料バスは12時15分にはシロソ・ポイント駅につきました。近くにケーブルカーの駅もあります。よし節約できたぞ。

このケーブルカー2駅の料金が数ドルとかなら乗ったものの、実はこのケーブルカーはシンガポール本島からセントーサ島に移動するための手段のひとつでもあって、料金は一律一日乗り放題で33ドル。カジノで勝ったドルがまだだいぶ余っているとはいえ、たった2駅の往復に払いたい金額ではちょっとありませんでした。

## スカイウォーク

ここからシロソ砦に向かうには普通に地上を歩いても良いのですが「スカイウォーク」という空中歩道があるようです。

**無料**でもあるようなので、チャレンジすることにして入口からエレベーターを上ります。



…なるほど。ここからの眺めは悪くないですね。シンガポールの本島がよく見えます。

そしてスカイウォークなのですが、これはここから北西のシロソ砦までの200mほどを結ぶ幅2m高さ36mほどの空中に渡した通路でした。

グランド・キャニオンのことを思い出すまでもなく高所恐怖症の自分としては、何でまたわざわざ自分からこんな所に俺は、とも後悔しないでもありませんでしたが（笑）、実のところコンクリート製のかなりしっかりした造りで、歩いていて揺れを感じることもそれほどにはなく、50mに1回くらい屋根のある休憩ポイントもあり、それほど歩いていて露骨に恐怖を感じることはありませんでした。

実のところたまに駅前にある、歩いていると足元がぐらぐら揺れる歩道橋の方がずっと怖いです。とはいえこの高さなので、なるべく下や横を見ないように通路の中央を足早に通り過ぎたというのがあります（笑）。通路の写真がないのはそのためですね。ここに興味のある方はネットで検索すると普通に通路の写真も見つかると思います。

ちなみに何でここにこの高さにスカイウォークを作ったのかな…と思ったところ、これは当時シロソ砦を占領した日本軍が樹上に作った**監視台の高さ**という説明がありました。なるほど、さすがはシロソ砦。ただの観光客向けの浮かれた施設ではありません。

## シロソ砦

スカイウォークを渡って12時半、シロソ砦の一角に到着。

ここからは他の観光客もまばらなシロソ砦の敷地内をうろうろ歩きながら大砲やら塹壕やらの写真を撮りまわっていますが、



本書でそれを逐次紹介することにそれほど意味や面白さがあるようには思えませんので、割愛します。総じて「うん、このへんは25年前とそんなに変わらないね」な感じ。

筆者は1993年に仕事でシンガポールに10日ほど出張したことがあるのです。そして休日に一度セントーサ島にも遊びに来たことがあったのでした。まあ当時のセントーサ島は本土から船で来る必要がありましたし、そもそも現在のようなリゾートアイランドではまったくなく、シロソ砦と動物園植物園くらいしか見るものがなかったものでした。海岸も泳ぐ気など起こらないくらい非常に汚かったのも覚えています。

## 戦勝記念館

その後「戦勝記念館」にも入ったのですが、客が自分1人だったため貸しきり状態で係員が自分の入場に合わせ館内音声メッセージやビデオをスタートさせてくれました。このため自分は、真っ暗な館内を勝手に奥に進むでもなく音声ガイドが全部流れ「次の順路」の照明がつくなり移動してまた次の音声ガイドを聞くといいへんに贅沢な鑑賞をさせていただきました（笑）。まあ途中から団体客がぞろぞろ入ってきて、その貸しきり状態も終了したのですが。

なお言うまでもなくここでのシンガポールの「戦勝」というのはイギリスの植民地であったシンガポールを日本に奪回・占領されていたものを日本の敗戦により再度イギリスに返還された過程をさしており、文書に調印する日本軍の蠟人形が割と見所ポイントだったりします（ここに写真は載せませんが）が、まあ別にいいでしょうね。



## マクドで昼食

一通りの観光を終え、13時20分に帰りのバスに乗ってシロソ・ポイントを後にします。まだ十分に遊べる時間はありますがどうしたものか。やはりセントーサ島にあるカジノに行くしかないかなと思いつつバスはインビア駅へ。インビア駅のバス停で降りると**目の前がカジノ**であるのに意表をつかれ、やっぱり入るしかないかなあという思いに。しかしカジノに入ろうと思ったらリュックをコインロッカーに預けろといわれる。本土はあったけどこっちにはないのか無料クローク。コインロッカーの値段を見ると2時間で12ドル。高いよ。そりゃまあこれから1枚25ドルのチップを賭けにいくんだけど、こういう無駄金は使いたくない。

利用するにしても2時間は短いからまずコインロッカーを利用する前に昼食にしようと思い、マクド。7.35ドルのセットで、特に書きたいことは別にありません。もぐもぐ。食事を終わると14時。



## やはりのカジノ

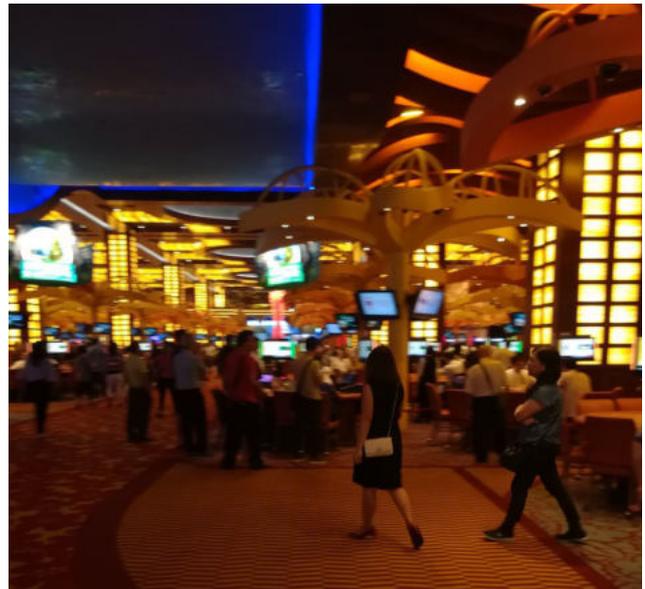
コインロッカー12ドルなんて阿呆らしいカジノなんてやめやめと思ったものの、昼食を済ませて冷静になると、あと4時間どうするんだ問題を解決するあてがありません。少し悩んだ末、やはり12ドルは入場料とでも考えて我慢するしかないか…という結論になりました。コインロッカーにリュックを放り込んで入場。中をしばらく歩き回って地理を把握し、無料のジュースを飲んでからブラックジャックの

ミニмум 25 ドルのテーブルを探して着席しました。

土曜日に 300 ドル勝つという大変気持ちよい経験をしたことから、ひとつ今日は 200 ドルを負けても別に構わないという気持ちで打ち始めました。土曜の後ではやや気持ちよく散財をしていることや、空港で女房へ土産に高級化粧品を買うと約束したことは覚えているもののそれは

**考えない**方向で（破滅的思考）。

それはそれとして 200 ドルを 8 枚の 25 ドルチップに替えて同じように打ち始めるとまたたちまち運よく勝ちました。200 ドルが 300 ドルに。100 ドルの勝ち。うっひょーう！ 嬉しさのあまりその 300 ドルチップを写真に取りツイッターで勝利報告をします。



ではこれをキャッシャーで現金化して帰るかな、と思ったものの時計を見るとまだ 30 分くらいしか経過していません。まだコインロッカーの時間も 1 時間以上あるな、そもそも空港に行くべき時間までまだ 3 時間以上あるな、とも思ったのでひとつ**もうひと勝負**することにしました。

そこでその 300 ドルのうちの勝ち分の 100 ドルを 25 ドルチップに替えて打ち始めるとたちどころに消滅。さすがにここで正気に戻って席を立てて終えたのでプラマイゼロ。あーっ、勝った所で止めていればー！ カジノこわい。そのままカジノを去ります。

ちなみにここで秒で 100 ドル溶かしたのはバツが悪いのでツイッターには書かなかった  
ので、ツイッターだけ読んでいる人は僕がここでも勝ったと思っているかも（笑）。

## さらばセントーサ

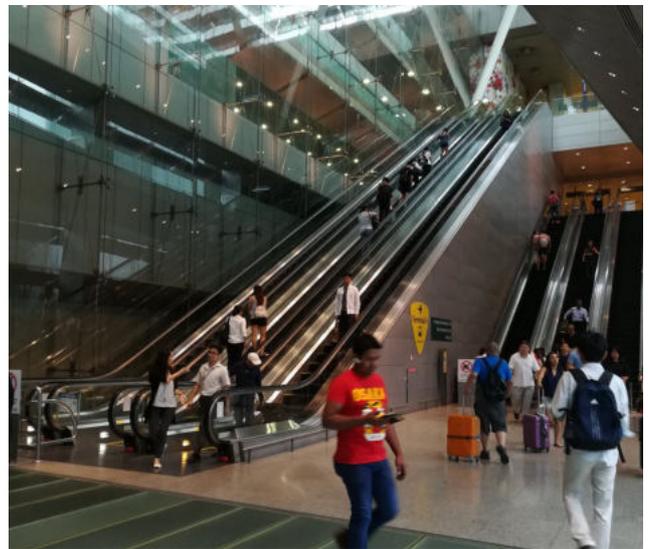
カジノを出て地上に上がると16時。フライトまであと6時間。空港まで1時間としてもまだひと遊びできる時間で目の前にはユニバーサルスタジオへの順路などもありますが、そのまま素通りしてエクスプレスの駅へ。それに乗ってまっすぐ本島へ帰ります。

さらばセントーサ。

特にもう駆け足で寄りたい所も別にないので、もう空港に移動して暇は空港で潰すことにします。メロスはカジノで勝てなくても女房への土産は空港で買わねばなりません。

エクスプレス駅を出たらMRTのハーバーフロント駅で北東線に乗り、アウトラムパーク駅で東西線に乗り換える。座れた。あとはタナ・メラー駅まで12駅を座っているだけでいい。

タナ・メラー駅で空港線に乗り換え17時過ぎに空港駅（ターミナル3）に到着。そういえばスクートのターミナルは…2か。移動しよ。ターミナル1・2とで行き先が分かれるエスカレーターに乗る。



## 女房への土産を購入

スクートのカウンターで発券終了。まだ5時間以上あるけどイミグレはくぐってしまおう。それから女房への土産も買って、夕食にしましょう。免税店を中心にチャンギ空港をぶらぶらします。CLINIQUEの免税店で例によって女房からリクエストを受けたリストを開く。スマホを店員に見せ、型番などを使える。微妙に型番が完全一致するものがないので

「代わりにこの番号とこの番号とこの番号が買えるがどれがいい？」とかメッセを送ってぶらぶらして返事を待ったりする。時差とか相手が起きているかどうかとか考えなくてもいいアジア圏はだから好き。

ふかふかのソファとTVがある無料の休憩ゾーン。こんなものもあるのか。床も横になってもよさそうなカーペット敷きだし、なるほどこれが「世界一寝やすい空港」と評価の高いゆえんのかなチャンギ空港。



女房のリクエストも折り合ったので、所望された化粧品数点を購入。全部で1万円くらいだろうか。カジノの勝ち金が溶ける溶けるまったく金のかかる女だぜ！（※ブランド品にしてはたいした値段じゃないです）

## 一風堂の博多とんこつラーメン



18時半です。そろそろ夕食にしましょう。何にしようかなと思っていたら一風堂の「博多とんこつラーメン」というのが目に入りました。

自分は別に異国でもラーメンを食べたくなるほどラーメンを愛している人間でもなくそもそも日本でも1時間並んでまでラーメンなんて食べないよ人間ですが、それはそれとして「ふむ」な気分。

とんこつラーメン8ドル。高いとは言えない  
というか日本の専門店を考えれば安い。  
カウンターに行き注文しました。  
厨房が丸見えなのでスープも黒人の店員が  
謎の**黄色い粉**を溶かしているだけなのを  
見てしまったものの、こんな所では大鍋で  
背骨を煮ているはずもないので無問題。  
それはそれとして、いっただっきまーす！



…予想を大幅に超えるうまさ。麺もうまいし、スープも全部飲みたくなる味。  
まあ僕は本当にラーメンにはうるさくないし、200円のカップラーメンでも満足ができて  
しまうしスープも全部飲んでしまえるくらいのラーメン舌なので参考にはならないかも。  
ていうか総じてこれ自体が**良いカップラーメン**のようなものですがそれで何が問題。  
満足して完食し、空の容器ゴミを捨てて終了。

## 無料の足マッサージ機

夕食を終えると19時。あと3時間。そろそろゲート  
番号くらいは出たかなと思いつつぶらぶらします。

一風堂の近くで、足マッサージ機が置いてある場所を  
発見。説明員もないし他の利用者もいなかったのもので、  
あれ、これって無料で使っていいのかなと思いつつ、  
どう見ても使って構わなそうだったので、座って足を



入れてスイッチを入れます。言うまでもなく快感。

他の客が詰めているわけでもないので心ゆくまで疲れた足をほぐします。快感。

これはどうやら空港の施設というよりは、シンガポールのマッサージ機メーカーの宣伝をかねたサービスであるようですが、ともあれ堪能。ありがとう OSIM さん（※1）。

※1 <https://sg.osim.com/>

## 搭乗

19時半に、ようやく E3 ゲートという情報が出たので移動し、20 時前には到着。

よし、あとはここで時間を潰すだけでいい。

（2220 離陸とあるので、20 分遅延していますね…）

21 時過ぎにゲートが開いた後、他の乗客とともに並び入ります。チャンギ空港は手荷物検査がイミグレの前ではなく各ゲートにあるので、ペットボトルを破棄するのはこのタイミング。

その後、ゲート後の隔離エリアでまた少し待ちます。



22 時 15 分、搭乗。なにごともなくそのまま離陸します。

次は 2 時間弱のフライトを終え、日付が変わる頃にバンコクのドンムアン空港です。

何もやることはないので軽く寝ておくことにしましょう。

## 2018年6月26日（火） ドンムアン空港

バンコク時間 23 時 34 分、ドンムアン空港に着陸。バンコクはシンガポールよりさらに 1 時間の時差があるので、これは日本時間で言うと 1 時 34 分になります（ここからは、もう日本時間で記することにします）。

例によってここでは、いったん降りて、乗り換えカードを貰ってまた乗って同じ席に座ってから 1 時間後にまた発つだけなので、何も書くべきことはありません。



敢えて言えば、昨年 1 年でミャンマーに

行き来する際にさんざん利用した深夜のドンムアン空港の乗り換えは**何も迷いもなく**進めパーツも用意していたので、手際よく飲み物だけを買って普通にまた乗れました。

## 帰国

離陸後に機内食をいただき（写真取り忘れました）、それが回収されると午前 3 時。もう寝るだけです。そして 6 時間のフライトを終えて 9 時に成田に着きました。

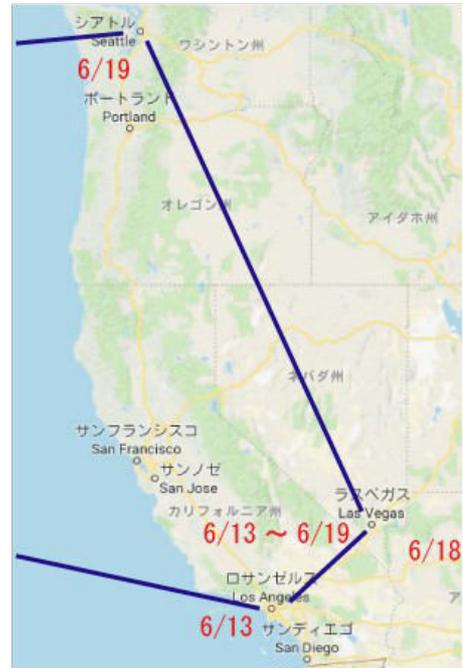
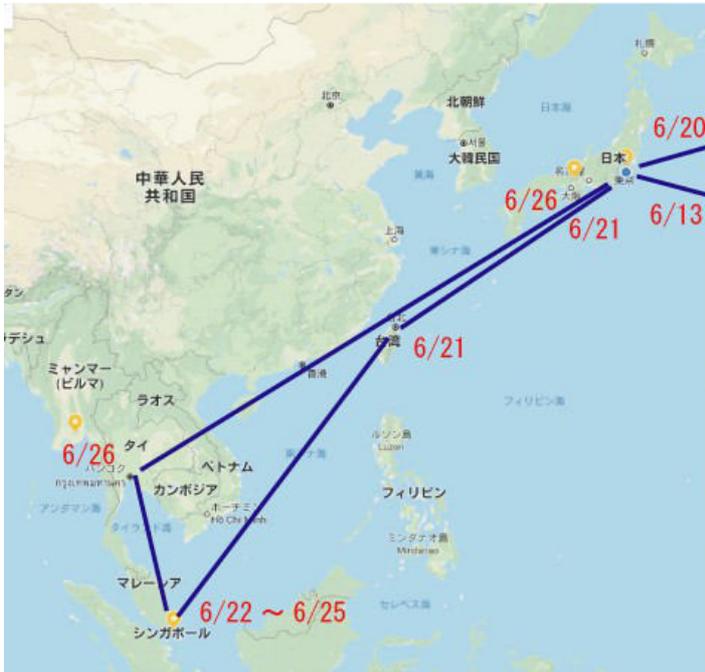
イミグレと税関を通過して（今回は荷物預かりはなし）、ファミマでおにぎりを買って 10 時に京成ホームで朝食。10 時 14 分に京成に乗り 1 時間後には青砥駅に到着。

タクシーで自宅に帰り、女房にたててもらった風呂に入ってようやく落ち着きました。

お家に帰るまでが GP でこれで GP シンガポールは終了ですが、とりあえずラスベガスと合わせて 2 週間のマジックは楽しかったが**さすがに疲れた**というものでした（笑）。

(完)

## カジノマジックをやりて東に西に2週間



Map by Google

### GP ラスベガス 2018 参加記

### GP シンガポール 2018 参加記

(v1.00)

発行：新小岩マジック <https://twitter.com/kondohi>

発行日：2018年8月10日

印刷所：日光企画

本書の文章や写真などの無断転載を禁じます

筆者（ひろじ）について：

<https://twitter.com/kondohi> （ツイッター。最近はここメインです）

<http://otakutalker.diarynote.jp/> （ダイアリーノート。マジック関連はここで）